

5歳児健診モデル事業 3年間のまとめ

(平成28年度～平成30年度)

～本格実施に向けての取組～



鈴鹿市

「5歳児健診事業」

～本格実施に向けて～



鈴鹿市では、毎年1,500人以上の尊い命が誕生しています。その生命を守り、健やかな成長を支援するため、赤ちゃん訪問を始め、4か月、10か月、1歳6か月、3歳児の乳幼児健診と就学時前に行う就学時健診をこれまで実施してきました。

しかしながら、昨今の情報化・グローバル化の進展により生活様式は多様化し、共働き世帯やひとり親世帯が増加する中、家族とのコミュニケーション不足等により孤立感を深め、自己肯定感を持つことができない子どもたちが増えています。また、子育て世代の保護者にとって保育所（園）や幼稚園等での初めての集団生活に不安を感じている方も多く、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。

そのような子どもたちを十分に把握し支援するため、社会性の発達が目覚ましい4歳～5歳の頃に5歳児健診（集団適応健診）を実施することで、集団生活でのなじみにくさや困り感が理解でき、就学前からの早期支援による対応が可能となります。

今後もこの事業の推進により、子どもと保護者が安心して就学を迎え、子ども自身が「生きる力」を身に付け、時代とともに変容する社会の中でも自信を持ち、自立し、多様な人々とつながり生きていくことができるよう途切れのない支援を充実させてまいります。

この度、平成28年度から3年間にわたり、医療、保健、福祉、教育等、関係機関の皆さまにご協力頂き、検討を重ねながらモデル事業として取り組んでまいりました内容を、振り返りとして冊子にまとめました。鈴鹿市の未来ある子どもたちの健やかな成長を願ってやみません。市民の皆さまのより一層の深いご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げますとともに、本事業の実施にあたりまして、ご尽力をいただきました保護者の皆さま、在籍園、医師会関係者の皆さま、並びに検討会議にご参画いただきました関係者全ての皆さまに心より感謝申し上げます。

2020年3月

鈴鹿市長 末松則子

医師会長あいさつ



鈴鹿市医師会としては、かねてより発達等に課題のある子どもの早期発見、早期対応の必要性を強く感じておりました。

子どもたちの健やかな成長のために、母子保健法による4か月児と10か月児の乳児健診、1歳6か月児や3歳児の幼児健診が実施されてきました。しかし、3歳児健診の後、就学直前の就学時健診まで健診が行われておらず、乳幼児健診体制に課題が残る状況でした。

健診の役割には、乳児期の健診は『先天性疾患、脳性麻痺、運動遅滞を伴う精神遅滞』、1歳6か月児健診は『重度精神遅滞、自閉症スペクトラム』、3歳児健診は『中等度の精神遅滞、自閉症スペクトラム』、これらに気づき、療育などの支援へつなげる機会をつくるというものとなっており、さらに、5歳児健診は『注意欠如・多動症等、軽度知的障がいや高機能自閉症』に気づいて、適切な対応や支援につなげていく機会をつくることのできるものとして、その必要性が求められています。また、健診は保護者の子育て相談の機会ともなります。

4歳～5歳児は、集団生活の機会が増え、協調性や共感性等、話を聞いて行動する社会性の発達が著しく育まれる時期です。そのため、集団行動が苦手、大人の指示が入りにくい、自分勝手な行動が多い、落ち着きがない、注意がそれやすい等の、課題にも気づきやすくなります。一方、就学までの1年間に子どもたちの課題に対して、保護者との情報共有を行い、適切な支援を行うことで、自尊心が育まれ、その子らしい生き方に繋がります。

これらのことから、鈴鹿市では、診断や障がいの特定をすることを目的とするのではなく、幅広く集団での困り感を把握し、早期支援を行うことに重点をおいて、5歳児健診への取組を始めました。この取組について、途切れない子育て支援の一環としての有効性を認識し、本会も行政とともに平成28年度から3年間のモデル事業として健診の体制づくりに取り組んできました。

今後も、本会は、5歳児健診が、子どもの健やかな成長に寄与する事業として、鈴鹿市の全ての子どもや保護者が安心して就学を迎えることをめざし、健診体制の充実に取り組んでまいります。引き続き、関係者の皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

2020年3月

鈴鹿市医師会長
西城英郎

目次

1	5歳児健診（集団適応健診）の実施にあたって	
	（1）実施に至った背景	1
	（2）目的	
	（3）対象年齢と根拠	
	（4）名称	2
2	3年間のモデル事業の経過（平成28年度～平成30年度）	
	（1）経過	3
	（2）各年度の主な取組内容	5
	（3）各年度の事業概要と経費	7
3	3年間の結果	
	（1）受診状況	9
	（2）判定結果	10
4	各年度別取組	
	（1）平成28年度	11
	（2）平成29年度	20
	（3）平成30年度	37
	（4）3年間の検討会議委員名簿	56
	（5）3年間の変遷	59
5	5歳児健診の内容（令和元年度）	
	（1）実施場所	61
	（2）健診従事者	
	（3）健診の流れ	
	（4）健診の流れのフローチャート図	62
	（5）健診当日の内容	63
	（6）健診当日のタイムスケジュールと担当	64
	（7）健診後のフォロー	65
6	本格実施（令和元年度）の取組	
	（1）取組の詳細	66
	（2）実績	67
7	3年間のモデル事業から本格実施へ	68
8	子ども家庭支援専門アドバイザーから	69

参考資料集

<健康診査に関すること>

- ① …三重県医師会による5歳児健康診査票（小枝方式改訂版）・・・ 1
- ② …保護者用問診票，担任用問診票・・・ 2
- ③ …「子どもの強さと困難さアンケート」SDQ を用いての評価表・・・ 5
- ④ …5歳児健診（集団）の観察集計表・・・ 7
- ⑤ …5歳児健診結果票（平成28年度～令和元年度）・・・ 8
- ⑥ …5歳児健診（個別）診査票・・・ 12
- ⑦ …5歳児健診後フォロー支援計画表・・・ 13

<周知・啓発に関すること>

- ⑧ …5歳児健診（集団適応健診）のお知らせ・・・ 14
- ⑨ …広報すずか「情報館①集団適応健診」・・・ 16
- ⑩ …子どもへの対応についてのチラシ・・・ 17
「すこやかな成長を願って～成功体験を増やしましょう～」

<健診後のフォローに関すること>

- ⑪ …5歳児・就学後フォローの保護者へのメッセージ・・・ 19
- ⑫ …すずっこスクエア・・・ 20

1 5歳児健診（集団適応健診）の実施にあたって

（1）実施に至った背景

小学校就学後に、集団生活になじみにくい、先生の話を書くことや授業中座っていることが苦手等、いわゆる「小1プロブレム^{*1}」の言葉に代表されるような集団生活での不適応行動を起こす子どもが増えてきているといわれている。

本市でも同様の状況が見られ、発達に関する相談は増加傾向にある。3歳児健診では集団場面での苦手さを見つけることが難しく、就学時健診では、就学までに十分な支援を行うことが難しい現状もあり、小学生になってから、初めて相談につながる場合もある。

このようなことから、本市では、子どもに関係する部署3課^{*2}が集まり準備委員会を立ち上げ、平成28年度から3年間のモデル事業を実施し、「5歳児健診（集団適応健診）」に取り組むことになった。

（2）目的

この健診は、病気の診断や障がい特定することを目的としていない。

集団生活になじみにくさのある子どもは、周囲から「怠けている」等と勘違いされやすく、注意を受ける機会が多くなり、自信をなくしてしまう場合があるとされている。子どもの特性が正しく理解され、適切な支援を受けることで、子どもが集団生活へ適応しやすくなることもある。子ども自身が成功体験を増やし、自信をもって就学を迎えることをめざし、以下の2点を目的とする。

- ①集団生活へのなじみにくさや苦手さに早い時期に気づき、適切な支援を就学前から始めること。
- ②健診をきっかけとし、保護者が関係機関との相談を通して、子どもへの適切な接し方や発達についての心配事などを解消すること。

（3）対象年齢と根拠

年齢：実施年度に満5歳（4歳児クラス）になる子ども

根拠：①この時期の子どもたちは、友だちとの関わりを求める時期であり集団生活へのなじみにくさや苦手さに気づきやすくなるといわれている。

②就学までに約1年間あり、支援をしていくための期間が確保できる。

(4) 名称

5歳児健診(集団適応健診)について、平成28年度から平成30年度までのモデル事業期間は、「集団適応健診」の名称で実施した。令和元年度から厚生労働省が「5歳児健診」という名称で推奨していることから「5歳児健診」と変更した。以下、「5歳児健診」と表記する。

※1 小1プロブレム…

小学1年生の教室等において、学習に集中できない、先生の話を受けない、集団行動がとれないなどなじめない状態が続くこと。
(文部科学省 幼小接続に関する資料参照)

※2 3課…母子保健, 成人保健, 地域医療等に関する業務を行っている健康づくり課(健康福祉部), 保育所(園)・幼稚園等に関する業務を行っている子ども育成課(子ども政策部), 子どもや家庭の支援に関する業務を行っている子ども家庭支援課(子ども政策部)のこと。



2 3年間のモデル事業の経過（平成28年度～平成30年度）

(1) 経過

令和元年度本格実施へ

平成30年度

<実施状況>

公立保育所 10園

公立幼稚園 11園

私立保育園 29園

私立幼稚園 6園

認定こども園 3園

認可外保育園 1園

60園（86回）
1,619人

欠席児・在宅児・市外園通園児等：6回 71人

検討会議：3回/年

ワーキング会議^{*3}：3回/年

平成29年度

<実施状況>

公立保育所 10園

公立幼稚園 10園

私立保育園 2園

私立幼稚園 1園

認定こども園 1園

24園
(34回)
618人

検討会議：4回/年

実務者会議：4回/年

平成28年度

<実施状況>

公立保育所 1園（前期・後期）

公立幼稚園 1園（前期・後期）

2園
(4回)
64人

検討会議^{*1}：4回/年

実務者会議^{*2}：6回/年



※1 検討会議…

5歳児健診検討会議の略。医師会代表、園代表、行政関係職員等が、健診事業の内容を検討する会議のこと。検討会議名簿は、58～60ページ参照。

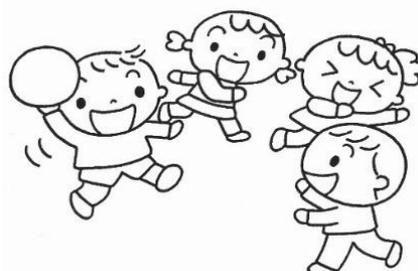
※2 実務者会議…

3課の実務者が、実施園の日程調整や乳幼児健診の情報共有、実施内容の検討等、健診が円滑に行えるよう担当者間で取り組む作業部会のこと。

※3 ワーキング会議…

平成30年度に実務者会議から名称を変更。健診事業の円滑な推進のための作業部会のこと。

【検討会議の様子】



(2) 各年度の主な取組内容

<平成27年度：準備期間（5歳児健診の事業が立案される）>

時 期	取 組 内 容
6月～	3課連携の準備委員会を立ち上げ、先進地視察（名張市、津市）を実施。事業名を「集団適応健診」とし、事務担当は、子ども家庭支援課とする。

<平成28年度>

時 期	取 組 内 容
4月～12月	実務者会議6回 （4月、6月、7月、8月、9月、12月）
5月～ 1月	検討会議4回（5月、6月、9月、1月）
6月	医師会小児科医会への健診説明会
7月	関係機関に向けての講演会
7月・11月	モデル園（2園）で健診
12月～ 3月	平成29年度モデル園（24園）代表への健診の依頼
2月	医師会園医への健診説明会

<平成29年度>

時 期	取 組 内 容
4月～ 3月	実務者会議4回（4月、8月、12月、3月）
4月～ 5月	平成29年度モデル園（24園）への健診説明会
6月～ 3月	検討会議4回（6月、9月、12月、3月）
7月	保幼小中の教職員・保育士を対象に夏期講座にて講演
7月～ 2月	モデル園（24園）で健診
8月	「CLMと個別の指導計画 ^{*1} 」研修会
1月～ 3月	保護者と実施園へのアンケートの実施
2月	発達に関する講演会
2月～ 3月	平成30年度実施園（私立幼稚園・私立保育園・認定こども園・公立保育所全園）への健診説明会

<平成30年度>

時 期	取 組 内 容
4月	平成30年度実施園（公立幼稚園全園）への健診説明会
4月～ 3月	ワーキング会議3回（4月，8月，3月）
5月～ 3月	検討会議3回（5月，10月，3月）
5月～12月	全園（60園）で健診
6月	私立保育連盟主任会での健診説明会
1月～ 2月	市内公共施設で在宅児等の健診（6回）
1月	発達に関する講演会
3月	保護者と実施園へのアンケートの実施

※1 「CLMと個別の指導計画」…

三重県立子ども心身発達医療センター（旧あすなろ学園）が開発した，保育所・幼稚園等における気になる子の行動等を観察し，個別の指導計画を作成するために開発されたアセスメントツール，及び，クラス全体と個別の支援計画。改定保育所保育指針の解説「CLMと個別の指導計画」の考え方が取り入れられている。Check List in Mieの略。以下CLMと表記する。

（CLMと個別の指導計画作成マニュアルから）



(3) 各年度の事業概要と経費

子ども家庭支援専門アドバイザー*1からの意見をもらう。

<平成28年度>

事業概要

【実施数】4回 公立保育所(1園) 公立幼稚園(1園)

【対象児数】67人 【受診児数】64人 【未受診児数】3人

【従事者】(1回の健診につき)12人

○集団観察…医師, 保育士, 教員, 保健師

○個別観察…医師, 保育士, 教員, 保健師(3人1組で4箇所)

○健診前・健診後カンファレンス…医師, 保育士, 教員, 保健師等

○医師の監修…保健師

○健診後の支援…保育士

経費(4,778千円)

【報酬】 子ども家庭支援専門アドバイザー

【報償費】 観察員*2(3人)・検討会議出席者・医師監修

【需用費】 消耗品

【備品費】 パーテーション 等

<平成29年度>

事業概要

【実施数】34回 私立保育園(2園)・私立幼稚園(1園)

私立認定こども園(1園) 8回

公立保育所(10園)・公立幼稚園(10園) 26回

【対象児数】648人 【受診児数】618人 【未受診児数】30人

【従事者】(1回の健診につき)7人

○集団観察…医師, 臨床心理士, 保育士, 教員, 保健師等

○個別観察…医師, 臨床心理士, 保育士, 教員, 保健師等

(2人1組で3~4箇所)

○健診前・健診後カンファレンス…医師, 臨床心理士, 保育士, 教員,
保健師等

○医師の監修…保健師

○健診後のフォロー…保育士(対象:4歳児, 5歳児)

経費(6,926千円)

【報酬】 子ども家庭支援専門アドバイザー

【報償費】 観察員(7人)・検討会議出席者・医師監修

【需用費】 印刷製本(ポスター, チラシ)・消耗品

【委託料】 システム経費 【備品費】 パーテーション 等

<平成30年度>



事業概要

【実施数】○園健診：86回

私立保育園（29園）・私立幼稚園（6園）

私立認定こども園（3園）・認可外保育園（1園） 59回

公立保育所（10園）・公立幼稚園（11園） 27回

○市外・認可外園通所児，在宅児：6回（市内公共施設で実施）

【対象児数】1,787人【受診児数】1,690人【未受診児数】97人

実施年度に満5歳になる全ての子どもが対象

【従事者】（1回の健診につき）7人

○集団観察…医師，臨床心理士，保育士，教員，保健師

○個別観察…医師，臨床心理士，保育士，保健師（2人1組で3～4箇所）

○健診前・健診後カンファレンス…医師，臨床心理士，保育士，
教員，保健師

○医師の監修…保健師

○健診後・就学後のフォロー…教員，保育士，保健師，心理士
（対象：4歳児，5歳児，1年生）

経費（10,594千円）

【報酬】 子ども家庭支援専門アドバイザー

【報償費】 観察員（7人）・検討会議出席者・医師監修

【需用費】 印刷製本（ポスター，チラシ）・消耗品

【委託料】 システム経費 【備品費】 パーテーション 等

健診内容の詳細については63ページに記載

令和元年度以降の本格実施へ

※1 子ども家庭支援専門アドバイザー…

平成28年度から5歳児健診システムの構築，職員研修等の実施，園等の巡回などの業務を行い，5歳児健診の体制確立のため，本市が独自で新たに設置した専門アドバイザーのこと。

嗜癡行動学，小児神経心理学を専門とし，発達障がいの子どもの早期発見・フォロー体制作りに見識の高い，浜松学院大学短期大学部 准教授 志村 浩二氏（臨床心理士）を平成28年4月1日付で委嘱した。

※2 観察員…

保育士や保健師等の資格を有し，5歳児健診で対象児の集団観察や個別観察を実施する従事者のこと。

3 3年間の結果

(1) 受診状況

<受診率>

	対象児（人）	受診児（人）	受診率（％）
平成28年度	67	64	95.5
平成29年度	648	618	95.4
平成30年度	1,787	1,690	94.6
計	2,502	2,372	(平均) 94.8

<未受診の理由>

	未受診児 （人）	未受診理由			未受診率（％）
		受診に 対する 同意なし	退園等	欠席等	
平成28年度	3	3	0	0	4.5
平成29年度	30	4	0	26	4.6
平成30年度	97	3	8	86	5.4
計	130	10	8	112	(平均) 5.2

<実施園数>

(園)

	実施園数	対象数
平成28年度	2	公立保 ^{*1} 1, 公立幼 ^{*2} 1
平成29年度	24	公立保 10, 公立幼 10 私立保 ^{*3} 2, 私立幼 ^{*4} 1, 認定こ ^{*5} 1
平成30年度	60	公立保 10, 公立幼 11 私立保 29, 私立幼 6, 認定こ 3, 認可外 ^{*6} 1

※1 公立保…公立保育所のこと。

※2 公立幼…公立幼稚園のこと。

※3 私立保…私立保育園のこと。

※4 私立幼…私立幼稚園のこと。

※5 認定こ…認定こども園のこと。

※6 認可外…認可外保育園のこと。

(2) 判定結果※¹

	受診児	良好	見守り	要支援	既支援
	人	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
平成28年度	64	18 (28.1)	35 (54.7) ※うち見守り	7 (10.9)	4 (6.3)
平成29年度	618	355 (57.4)	157 (25.4) ※うち見守り	64 (10.4)	42 (6.8)
平成30年度	1,690	1,037 (61.3)	451 (26.7)	128 (7.6)	74 (4.4)
計 (平均)	2,372	1,410 (59.4)	643 (27.1)	199 (8.4)	120 (5.1)

※1 判定結果…

下記の①～⑤に示す5つの観察ポイント

- ①大人からの働きかけを受け入れ応じる力
- ②人とかかわる力
- ③ことばの発達
- ④運動の発達
- ⑤緊張や不安なく対応する力

から「良好」、「見守り」、「要支援」、「既支援」の4つに分けた判定結果。既支援は「すずかっ子支援ファイル※²」を活用し支援を受けている場合の判定となる。

- 平成28、29年度は、「見守り」を「良好判定のうち見守り」※³とした。
- 平成30年度は、「見守り」判定となった子どもの様子を保護者に伝えるため、「良好」判定と区分した。

※2 すずかっ子支援ファイル…

一人ひとりの特性やニーズに応じて作成される支援計画や支援・指導等に関する資料を綴じたファイルのこと。三重県教育委員会「パーソナルカルテ」にあたる。

※3 良好判定のうち見守り…

5つのポイントで少し気になる項目がある場合、園で成長を見守ってもらうよう設定された判定のこと。

4 各年度別取組

(1) 平成28年度

1) 実績

①実施園

実施園（実施回数）	対象園（実施回数）
2（4）	公立保 1（2），公立幼 1（2）

②受診状況

<受診率>

対象児数（人）	受診児数（人）	受診率（％）
67	64	95.5

<未受診の理由>

未受診児数 （人）	未受診理由			未受診率 （％）
	受診に対する 同意なし	退園等	欠席等	
3	3	0	0	4.5

③健診実施時期

実施時期
平成28年7月13日・29日，11月7日・17日（園健診） 1園の対象児数を半数に分けて，前期・後期で実施

④判定結果（受診児内訳）

	受診児数	良好 （うち見守り）	要支援	既支援
人数（人）	64	53 (35)	7	4
割合（％）	100	82.8 (54.7)	10.9	6.3

2) 健診対象児の就学判定結果

〈就学支援委員会※¹での就学判定結果（平成30年度就学児）〉

		平成28年度に実施した5歳児健診の判定区分					計	
		良好	見守り	要支援	既支援	未受診		
人数（人）		18	35	7	4	3	67	
割合（％）		26.9	52.2	10.4	6.0	4.5	100	
就学判定結果	通常学級	0	0	1	0	0	1	
	特別支援学級	知的	0	0	1	3	0	4
		自・情	0	0	0	1	0	1
		肢体	0	0	0	0	0	0
	特別支援学校	0	0	0	0	0	0	
就学判定申請児数		0	0	2	4	0	6	

「見守り」は「良好判定のうち見守り」と判定

※1 就学支援委員会…

支援を要する子どもの保護者から、就学判定の申請を受け、幼児児童生徒の障がいの種類、程度等の判定について、調査及び審議し、幼児児童生徒の適正な就学先を判定する委員会のこと。

委員会は、医師や児童福祉施設職員、県立特別支援学校教員及び市内小中学校教員、指導主事等で構成される。



3) 取組の詳細

項目	月 日	内 容
検 討 会 議	第 1 回： 5月24日	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業3か年の実施計画について 年間計画について 健診方法と健診の流れについて モデル園での試行内容，必要書類について
	第 2 回： 6月15日	<ul style="list-style-type: none"> 前期モデル事業の内容について 医師監修の方法について
	第 3 回： 9月 5日	<ul style="list-style-type: none"> 前期モデル事業の結果について 後期モデル事業に向けての変更点（問診票，判定基準，集団観察のポイント等）について 保護者への結果伝えについて
	第 4 回： 1月31日	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度モデル事業の反省及び平成29年度モデル事業に向けての検討について
実 務 者 会 議	第 1 回： 4月19日	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業3か年の実施計画について 第1回検討会議の内容について 検討会議の委員について 健診従事者の研修について 各課の役割分担について 今後の実務者会議の予定について
	第 2 回： 6月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 名張市の視察について 第2回検討会議の内容について
	第 3 回： 7月 1日	<ul style="list-style-type: none"> 名張市の視察の結果報告について 前期モデル事業の実施について 医師会小児科医会への説明について 「小枝方式改訂版」※¹（参考資料①）の練習
	第 4 回： 8月17日	<ul style="list-style-type: none"> 前期モデル事業の反省と課題及び後期モデル事業に向けての変更点について 第3回検討会議の内容について
	第 5 回： 9月30日	<ul style="list-style-type: none"> 問診票等の改正について 後期モデル事業の実施について
	第 6 回： 12月 2日	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の健診方法について 個別観察の判定基準の統一について 医師監修について 第4回検討会議の内容について

項目	月 日	内 容
研 修 会 ・ 講 演 会 ・ 説 明 会 等	6月21日	・ 医師会小児科医会への説明会
	7月25日	・ 関係機関対象の講演会 「気になる子の理解と支援」 講師：子ども家庭支援専門アドバイザー
	12月～3月	・ 平成29年度モデル園（24園）代表への健診の依頼
	2月27日	・ 医師会への5歳児健診説明会 「5歳児健診について」 担当：子ども家庭支援課職員 ・ 「早期発見早期支援とその効果について ～とぎれのない子どもへの支援を 目指して～」 講師：子ども家庭支援専門アドバイザー

※1 小枝方式改訂版…

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター こころの診療部
統括部長 小枝 達也 氏が、5歳児健診において、認知・社会性・行
動統制の発達の概略を知ることのできる診察を行うために考案した、
チェックリスト「小枝方式」を三重県医師会が改訂したもの。



4) 実施後の課題と平成28年度後期及び平成29年度に向けた対応

項目	実施後の課題	平成28年度後期及び平成29年度に向けた対応
判定基準	<ul style="list-style-type: none"> 多くの子どもを同時に観察する中で、支援が必要な子どもを確認しにくい可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問診票（参考資料②）にSDQ（子どもの強さと困難さアンケート）※¹（参考資料③）を追加した。 SDQの合計点数が16点以上の子どもについては、より丁寧に観察するようにした。
	<ul style="list-style-type: none"> 集団観察の健診は「朝の会・集団ゲーム・絵本」の場面で実施したが、友だち関係がみえにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団観察に「自由遊び」を追加することとした。
	<ul style="list-style-type: none"> 個別観察の結果から判定に導く基準が確定していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別観察の項目ごとの通過率を結果に反映させることとした。
	<ul style="list-style-type: none"> 判定区分は良好と要支援、既支援と設定したが、判定区分に該当しにくい場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 良好と要支援の間に「良好うち見守り」を追加することとした。
	<ul style="list-style-type: none"> 判定基準を統一する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団観察の観察項目を、9項目設定し、点数化して評価することとした（参考資料④）。
結果の伝え方	<ul style="list-style-type: none"> 結果票（参考資料⑤）に、結果のみでなく、子どもの様子の記載がほしいという意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 要支援判定となった子どもについては、結果票の観察項目の該当する項目に○を記す形式に改善した。
	<ul style="list-style-type: none"> 要支援判定となった子どもの結果伝えでは、保護者に不安を与えないような、結果の伝え方が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの様子を伝える際には、保護者の気持ちに寄り添って伝えることとした。
	<ul style="list-style-type: none"> 要支援判定となった子どもの保護者に「すずかっ子支援ファイル」を勧めたが、唐突すぎたため、作成に躊躇される保護者がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「すずかっ子支援ファイル」の内容や活用方法を伝え、作成を勧めるときには、実施園の先生と相談し、保護者の受け止め状況に合わせ柔軟に対応することとした。

項目	実施後の課題	平成28年度後期及び平成29年度に向けた対応
伝え方の結果	<ul style="list-style-type: none"> 要支援判定となった子どもの保護者と、実施園、子ども家庭支援課職員と情報共有できる体制が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施園の先生が、結果伝えの場に同席することで、情報共有ができ、保護者の安心感へとつながった。
周知	<ul style="list-style-type: none"> 実施園の拡大に伴い、関係機関の理解と協力が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル園（24園）への説明会を実施することとした。
早期支援	<ul style="list-style-type: none"> 健診を行うことに重点をおいて取り組んできたため、支援の実施が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 要支援判定となった子どもの中からクラスで1人を対象にCLMを活用することとした。そのことで、クラス全体の成長を促し、他の要支援判定となった子どもへの支援につなげるようにした。 要支援、見守り判定となった子どもの観察を行うこととした。 5歳児クラスへ進級後に観察を行い、必要に応じて実施園に支援方法を提示した。保護者に対しては就学に向けた相談を行うこととした。
医師会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 実施園の拡大に伴い、医師会の協力が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師会や小児科医会への説明会を実施し、健診への協力を依頼した。
	<ul style="list-style-type: none"> 実施園が増えると、健診当日に全ての園医が監修することは困難であると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師会と協議し、別日で各園医に健診の様子を伝え、監修を依頼する方法を基本とした。
	<ul style="list-style-type: none"> 実施園との連携・情報共有が必要であるため、保護者の同意を得ておく必要があると医師会から助言を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 問診票に保護者の同意欄を設け、実施園との情報共有について同意を得ることとした。
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿を多面的に把握するために、個別観察の必要性について助言を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別観察には、三重県医師会5歳児健診マニュアルの小枝方式改訂版を活用することとした。

項目	実施後の課題	平成28年度後期及び平成29年度に向けた対応
医師会との連携	<ul style="list-style-type: none"> • 良好のうち見守りの判定基準が不明確である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 集団観察の判定基準を検討した。 • 個別観察については、通過率を確認し、判定基準を検討した。
	<ul style="list-style-type: none"> • 私立保育園は園により特色が異なるため、モデル園を増やすと良いと助言を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> • 実施園を増やし、私立保育園2園、認定こども園1園、私立幼稚園1園で実施することとした。
関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> • 5歳児健診の確立に向けて、本市独自の方法を確立していく必要がある。 • 対象児が増えるため、乳幼児健診情報の把握が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 視察や実務者会議、健診を3課で行い、実施方法の検討を行った。 • 健康づくり課が把握している乳幼児情報のデータを共有できるように、システムを改修した。 • 実施園の日程調整を子ども育成課と教育委員会事務局教育指導課^{*2}が担当することとした。 • モデル事業の拡大のため、私立保育連盟、認定こども園、私立幼稚園代表に趣旨を説明し、協力を依頼した。 • 平成29年度の実施に向けて、検討会議に教育指導課の参加を依頼することとした。
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 健診方法を構築し、精度を高めていくことが必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> • モデル事業の開始にあたり、子ども家庭支援専門アドバイザーを配置した。
	<ul style="list-style-type: none"> • 健診の実施方法等について、モデル園との調整が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • モデル園の理解と協力を得るために説明会を開催することとした。 • モデル園によって保育時間や保育内容が異なるため、各園の状況に応じて対応することとした。

項目	実施後の課題	平成28年度後期及び 平成29年度に向けた対応
その他	<ul style="list-style-type: none"> 1回の健診対象児が30人程になると、個別観察に対応する人員の増員が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象児数に応じて個別観察に対応する人員を増加した。

※1 SDQ（子どもの強さと困難さアンケート）…

厚生労働省ホームページ及び5歳児健診事業（東京都方式）を参考に作成した、子どもの情緒や行動についての簡易な質問アンケートのこと。

※2 教育委員会事務局教育指導課…

幼稚園教育・学校教育の指導，特別支援教育等の教育研究，教職員研修に関する業務を行っている課のこと。



5) まとめ

平成27年度に、本市で5歳児健診の実施が決定されたことに伴い、子どもに関わる3課で話し合いを行い、近隣市町の先進地を視察した。

平成28年度は先進地の実施内容を取り入れることを検討し、医師会を含めた検討会議や子ども家庭支援専門アドバイザーと協議を行いながら、本市で実施する5歳児健診の方法を検討した。

健診では、子どもの苦手なことや得意なことを理解するため、集団や個別の場面（三重県医師会5歳児健診マニュアル：小枝方式改訂版）の両方を観察することにした。

モデル園を公立幼稚園・保育所2園とし、前期・後期に分けて少人数で実施した。問診票の内容や観察の方法・見方については検討を重ねた結果、必要な情報が把握しやすくなり、観察の見方を絞ることができた。これにより、丁寧に観ていく必要のある子どもを把握しやすくなり、平成29年度にむけて基本のかたちが見えた。

保護者が同席しない健診であるため、保護者の理解を得ることが大切であり、要支援判定となった子どもについては、保護者との面談において子どもの姿を共有していくこととした。しかし、保護者に子どもの様子をわかりやすく伝えられず、不安にさせてしまうこともあった。保護者への結果伝えの難しさを実感し、子ども家庭支援専門アドバイザーの助言を受け、どのように伝えようと保護者が前向きに受け止められるのかを考え、次へつなげた。

結果伝えには、情報共有のために園の先生が同席することで保護者が安心でき、その後の適切な支援へつながる事例もあった。

さらに、結果票には具体的な内容を記載していなかったため、子どもの姿がわからないという保護者からの意見もあり、平成29年度に向けて、結果票の改善を図ることとなった。

また、平成29年度はモデル園が増えることから、さらに健診従事者のスキルアップを図るため、研修を行った。

この健診は、子どもや保護者が集団生活の中で安心して就学を迎え、健やかに成長していくことが目的である。そのためには早期からの適切な支援が重要であることを再認識した。

健診の体制や判定の基準、問診票や案内文書等は次年度に向けて準備が整いつつあるが、子どもや保護者への丁寧な支援の方法については、平成29年度へ継続する課題となった。

(2) 平成29年度

1) 実績

①実施園

実施園（実施回数）	対象園（実施回数）
24（34）	公立保10（14）、公立幼10（12） 私立保 2（2）、私立幼 1（5） 認定こ 1（1）

②受診状況

<受診率>

対象児（人）	受診児（人）	受診率（%）
48	618	95.4

<未受診の理由>

未受診児 （人）	未受診理由			未受診率 （%）
	受診に対する 同意なし	退園等	欠席等	
30	4	0	26	4.6

③健診実施時期

実施時期
平成29年7月4日～平成30年1月30日（園健診）

④判定結果（受診児内訳）

	受診児	良好 （うち見守り）	要支援	既支援
人数（人）	618	512 （157）	64	42
割合（%）	100	82.8 （25.4）	10.4	6.8

⑤5歳児健診と3歳児健診結果との関連性

		3歳児健診判定区分				
		課題通過 ^{※1}	要指導	要経過観察	未受診	計
		人(%)	人(%)	人(%)	人(%)	人
5歳児健診判定区分	良好	240 (67.6)	46 (13.0)	48 (13.5)	21 (5.9)	355
	見守り	70 (44.6)	40 (25.5)	36 (22.9)	11 (7.0)	157
	要支援	18 (28.1)	17 (26.6)	24 (37.5)	5 (7.8)	64
	既支援	2 (4.8)	2 (4.8)	35 (83.3)	3 (7.1)	42
	未受診	18 (60.0)	4 (13.4)	7 (23.3)	1 (3.3)	30
	計	348	109	150	41	648

「見守り」は「良好判定のうち見守り」と判定

★5歳児健診と3歳児健診の結果について

5歳児健診において、要支援判定となった子どもは、3歳児健診でも「要指導」「要経過観察」の結果である傾向が強い。また、5歳児健診で、良好判定となった子どもは、3歳児健診でも過半数が「課題通過」となっている。

また、既支援判定となった子どもは3歳児健診で「要経過観察」である場合が大半を占めており、「すずかっ子支援ファイル」を作成し、支援を受けていることがわかる。

これらのことから、5歳児健診と3歳児健診の結果について関連性が強いことがわかった。

※1 課題通過…

3歳児健診で確認する課題について、問題が生じていない状態のこと。

2) フォロー状況

<健診後フォロー内容について>

- 要支援判定となった子どもの中から、クラスで1人を対象にCLMを活用して支援を行う。個別支援を行うとともに、クラス全体への成長を促す。
- 要支援及び見守り判定となった子どもの園観察を年度末に行う。
- 子どもの発達に心配のある保護者に対しては、観察時の様子を連絡する。

<フォロー実施状況（CLM）>

実施園数：24園（27クラス）、要支援判定となった子どもの数：64人

園区分	健診実施園数	フォロー園数	フォロークラス	CLM実施延べ人数
公立保	10	9	13	13
公立幼	10	6	6	6
私立保	2	2	2	2
私立幼 認定こ	2	2	6	6
計	24	19	27	27

- 5歳児クラスへ進級後も観察を行い、必要に応じて実施園と支援方法の検討を行った。



3) 健診対象児の就学判定結果

<就学支援委員会での就学判定結果（平成31年度就学児）>

		平成29年度に実施した5歳児健診の判定区分					計	
		良好	見守り	要支援	既支援	未受診		
人数（人）		355	157	64	42	30	648	
割合（％）		54.8	24.2	9.9	6.5	4.6	100	
就 学 判 定 結 果	通常学級	0	0	0	0	0	0	
	特別 支援 学級	知的	0	2	4	3	2	11
		自・情	0	0	6	8	0	14
		肢体	0	0	1	0	0	1
	特別 支援 学 校	知的	0	0	0	11	0	11
		肢体	0	0	0	0	0	0
		盲	0	0	0	0	0	0
		ろう	0	0	0	0	0	0
	就学判定申請児数		0	2	11	22	2	37

「見守り」は「良好判定のうち見守り」と判定

4) 取組の詳細

項目	月 日	内 容
検討会議	第1回： 6月27日	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業2年目の実施計画について 平成28年度のモデル事業の結果報告 平成29年度の計画（案）について
	第2回： 9月 4日	<ul style="list-style-type: none"> 経過報告（現状と実績等） 結果票について 健診後のフォローについて
	第3回： 12月19日	<ul style="list-style-type: none"> 経過報告（受診状況，個別観察データ結果，フォロー状況） 平成30年度計画（案）について
	第4回： 3月20日	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度のモデル事業の結果報告 平成30年度の計画（内容，判定基準，結果票，在宅児への対応，体制等）（案）について
実務者会議	第1回： 4月10日	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度のモデル事業の実施報告 平成29年度の計画（案）について
	第2回： 8月30日	<ul style="list-style-type: none"> 7月分の経過報告について 第2回検討会議の内容について
	第3回： 12月 8日	<ul style="list-style-type: none"> 7月から11月までの経過報告について 第3回検討会議の内容について
	第4回： 3月12日	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度のモデル事業の結果報告 平成30年度の計画（案）について 第4回検討会議の内容について
研修会・講演会・説明会等	3月～5月	平成29年度モデル園（全24園）への説明会
	7月24日	<ul style="list-style-type: none"> 夏期研修会「気になる子への関わり方」 講師：子ども家庭支援課職員
	8月 9日	<ul style="list-style-type: none"> 「CLMと個別の指導計画」研修会 講師：子ども家庭支援課職員
	2月28日	<ul style="list-style-type: none"> 発達に関する講演会 「集団参加に必要な力を育てる ～就学までの社会性の発達をふまえて～」 講師：公益社団法人発達協会 療育部長 小倉 尚子 氏
	2月～3月	平成30年度モデル園（私立幼稚園・公私立保育所（園）・認定こども園）への説明会

5) 実施後の課題及び平成30年度に向けた対応

項目	実施後の課題	平成30年度に向けた対応
判定基準	<ul style="list-style-type: none"> ・集団観察の判定基準について、標準化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの再検討及び観察員間の判定基準の確認を行うこととした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・対象児の月齢によって個別観察の結果に差が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のデータから月齢別の個別観察チェックシート（参考資料⑥）を作成した。 ・実施園での状況も聞き取り、判定に反映させることとした。
結果の伝え方	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から、良好判定となった子どもの結果票の表現がわかりにくいという意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果票は表現を文章化して、曖昧な表現を省くこととした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・良好のうち見守り判定となった子どもの保護者に対し、結果の伝え方に工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・判定を良好、見守り、要支援、既支援に分類した。 ・見守り判定となった子どもに対しては、結果票に健診時の様子を記載することとした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援判定となった子どもの結果票（参考資料⑤）には、項目に○を記す方法から改善したが、詳しい説明を求める保護者からの意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果票には健診の様子を記載する方法に改善した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・既支援判定となった子どもの保護者から、すでに支援を受けていても健診時の様子の記載を求める意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既支援判定となった子どもの結果票に健診時の様子を記載することとした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援判定となった子どもの結果伝えで、実施園との打合せ不足がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に実施園と子ども家庭支援課職員で、結果伝えの進め方について、打合せを行うようにした。

項目	実施後の課題	平成30年度に向けた対応
早期支援	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児健診の保護者アンケートで、「健診後のフォロー体制を充実させてほしい」、「健診後の子どもの成長について知りたい」等の意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 要支援判定となった子ども全員に、健診後のフォローとして、園での観察を実施し、支援方法の提示を行うこととした。また、健診の数か月後に子ども家庭支援課職員が実施園から様子を聞き取り、保護者へ園での子どもの様子を伝えたり、心配事を聞いたりすることとした。 5歳児クラスへ進級後に観察を行い、必要に応じて実施園に支援方法を提示し、保護者に対しては就学に向けた相談を行うこととした。(CLM、保護者への連絡、すずかっ子支援ファイル、就学の相談、引継ぎ支援会議^{*1}等)。
	<ul style="list-style-type: none"> 実施園から、「CLMの時間を確保しにくい」、「CLM対象の子どもだけでなく、他の子どもへの支援方法の提示してほしい」などの意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の方法として、CLMを活用するか否かを実施園が選択するようにした。 CLM対象以外の子どもには、支援計画表(参考資料⑦)を実施園と作成することとした。
周知	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートにおいて、「健診の目的や実施内容がわからない」という意見がある。 実施していない園や、在宅児の保護者への周知が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 健診のチラシ(参考資料⑧)やポスターを、市内全園、全小学校、子育て支援センター等に配布することとした。 テレビ広報すずかで、5歳児健診の目的、内容を周知することとした。 広報すずか(参考資料⑨)に5歳児健診の取組を掲載することとした。

項目	実施後の課題	平成30年度に向けた対応
小学校への引継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> 小学校と実施園，子ども家庭支援課職員との情報共有が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度就学する子ども（平成28年度健診受診児）に対して，子ども家庭支援課職員が保護者の相談を受けたり，学校と支援の方法を考えたりすることとした。 すずかっ子支援ファイルの作成や引継ぎ支援会議等を行い，小学校との連携を図ることとした。
医師会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 要支援判定となった子どもの対応について，保護者と実施園を対象にアンケート調査の必要性について助言を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 要支援判定となった子どもの保護者や実施園に，個別面談や健診後の子どもの様子についてアンケートを実施することとした。
	<ul style="list-style-type: none"> 健診の精度を高めるため，3歳児健診の結果との関連性を見ることが大切であると助言を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児健診と3歳児健診との結果を比較し，関連性を検証することとした。
と関係連携	<ul style="list-style-type: none"> 全園が実施となるため，健診の日程が重ならないよう，調整する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日程調整については，公立保育所は子ども育成課，公立幼稚園は教育指導課，私立園は私立保育連盟代表や私立幼稚園代表と調整して行うこととした。 実務者として，教育指導課が加わることとなった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 健診当日欠席した子どもや在宅の子どもについて，健診方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 健診を欠席した子どもと在宅の子ども，市外園へ通園している子どもに対して，市内公共施設で健診を行うこととした。

※1 引継ぎ支援会議…

保護者と在籍園等が，家庭や園，児童発達支援事業所等での様子，今までの支援方法等を学校へ引継ぐための会議のこと。

6) 5歳児健診のアンケート結果

○対象数 【保護者】 618人

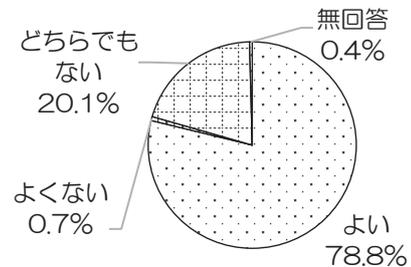
【園】 24園

○有効回答数 【保護者】 477人 (77.2%) 【園】 21園 (87.5%)

① 5歳児健診の有効性について

【保護者】

スムーズな就学のために5歳児健診を行うことについてどう思われますか？



	よい	よくない	どちらでもない	無回答
人数 (人)	376	3	96	2
割合 (%)	78.8	0.7	20.1	0.4

< 「よい」と回答された中の主な意見内容 >

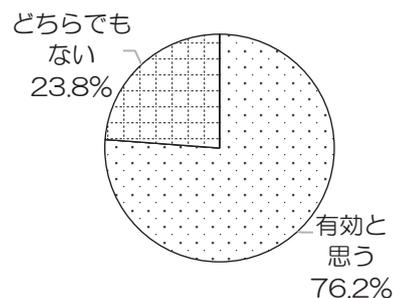
- 家の様子では気づけないことも、専門的な第三者が客観的に集団生活を見ることで、気づけることもあると思う。
- 就学前に、子どもの特性を少しでも早めに知ることで、個々にあった支援の方法や環境について考えることができる。
- 子どもが集団活動を行うことができているかを知ることができる。
- 現在の子どもの個性や苦手なところを理解するきっかけとなる。
- 健診を行ってもらうことで安心できる。心配なことがあったときに相談する機会を作ってくれる。
- 早期に発達課題の有無を知ることができる。
- 早期から支援が必要な状況であるとわかり、その支援を受けられるのであれば、子どもや親にとって心強い。
- 園での様子を見てもらえて良い。
- スムーズに就学するためには健診をすることが必要。
- 3歳児健診から就学までの間に不安があるので健診を受けられるのはよい。
- 小学校に子どもの様子が伝わるため、対応を考えてもらえる。
- 兄弟や親せきが小学校に就学してから適応が難しいことがわかった。今回のように、もっと早く知りたいと思う。

<「よくない」「どちらでもない」と回答された中の主な意見内容>

- 意味がよくわからなかった。スムーズな就学は誰のためか。親が集団適応を望んでいるか聞いてほしい。
- 健診の内容を含め、実際に何が行われたのかがわからない。
- とても不快な思いをした。中途半端な内容で戸惑う。
- 結果の表現の仕方が曖昧であったり、表記が簡単すぎたりしており、今後どう対応したらよいのかがわからない。
- 一日の健診でスムーズな就学のための判断ができるのか。
- 健診の目的や結果がどう活用されているかがわからないので、健診を行うことで何がよいのかがわからない。
- 必要性を感じていない。
- 納得する部分もあるが、それが全てではないと思うので、逆に心配や悩みが増えることもある。

【園】

スムーズな就学のために5歳児健診を行うことは有効と思われますか？



	有効と思う	有効と思わない	どちらでもない	無回答
園数(園)	16	0	5	0
割合(%)	76.2	0.0	23.8	0.0

<「有効と思う」と回答された中の主な意見内容>

- 早期に適切な支援を行うことは、子どもや担任にとって有効である。
- 子どもの発達について、保護者と話し合うきっかけとなる。保護者の不安軽減につながる。
- 保護者が意識して子どもに向き合う機会となる。

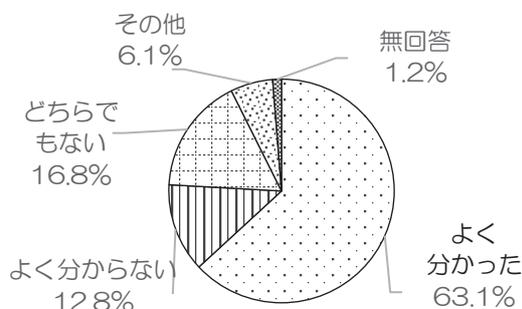
<「どちらでもない」と回答された中の主な意見内容>

- 第三者の立場からの観察により、気づいた点や改善点は見つかるが、保護者と連携していく上では難しさが残る。
- 1回の健診だけではわからないと思う。
- パーテーションで仕切られたスペースでの検査、初めて出会った人からの質問などにより非常に緊張した状況の中での健診となるため、本来の子どもの姿が表れにくいのではないかと。
- 要支援判定となった子どもは結果を保護者に知らせることができたが、見守り判定となった子どもは、良好判定となった子どもと同じ結果が届くため、保護者に気づいてほしい点が伝わらない。

②結果伝えについて（結果票の内容）

【保護者】

結果票の内容についてどう思われましたか？



	よく分かった	よく分からない	どちらでもない	その他	無回答
人数 (人)	301	61	80	29	6
割合 (%)	63.1	12.8	16.8	6.1	1.2

<「よく分かった」と回答された中の主な意見内容>

- 年齢とともに成長していることが客観的に分かった。
- 家では集団活動の様子を見るのが難しいので、相談先があり、結果が明確に出るのは良い。
- 専門的な第三者に判断してもらえるので、素人では気付かない疑問も解決し、早期発見に繋がるならば、とても良い健診だと思う。
- 小学1年生になる前は不安があるので、気づくためのきっかけになると思う。

<「よく分からない」「どちらでもない」と回答された中の主な意見内容>

- わかりにくい。
- 具体的に文章にすべきである。
- 簡潔すぎる。
- 「おおむね良好」の表記が曖昧で何に問題があるのか疑問に思う。
- 既にすずかっ子支援ファイルを作成していたため、結果票に何も記入がなかった。支援を受けていても園での様子を知りたいので記入してほしい。
- 保護者がいない場所で行われる健診なので、もう少し詳しく書かれていると良いと思う。何が足りないのかを記載してほしい。
- どの項目ができたのか、できなかったかを記載してほしい。
- 表現が抽象的でどう捉えたらよいのかがわからない。

<「その他」と回答された方、選択肢無回答の方の主な意見内容>

- 何段階の評価があるのかわからない。
- わかりにくかったため、電話で問い合わせをした。
- 「すずかっ子支援ファイルを活用し…」という表現のみだった。それならば不要だと思う。
- 観察のポイントと個人の様子を教えてもらえればよい。
- ざっくりと内容が書いてあるだけだったので不安に思う。
- 集団活動の中で、無理に適應しないといけないのかという疑問がある。

③結果伝えについて（個別面談）

【保護者】

個別面談についてどう思われましたか？

（個別面談が「あった」と回答した人のみ 63人回答） （複数回答）

	よく分かった	安心できた	どちらでもない	分からなかった	心配事が解消できた	その他
人数（人）	48	22	5	2	8	4

<「よく分かった」「安心できた」等回答された主な意見内容>

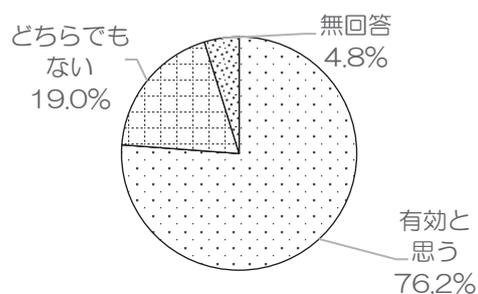
- 親が気づけなかったことを伝えてもらったおかげで、家庭でもできることが何かがわかる。
- 子どもの様子で心配に思っていたことを聞き、これからの支援を考えることができたので安心した。
- 今まで子どもに怒ってばかりいたが、褒めることの大切さに気づき、少しでも褒めることを増やしていこうと思った。
- 今後、就学に向けて、どのように子どもと関わっていくとよいかということがわかり良かった。

<「どちらでもない」「分からなかった」等回答された主な意見内容>

- 希望して面談を行った。相談させてもらったが、アドバイス内容は家庭でも既に行っていることだったので、他のアドバイスが欲しい。
- 支援を必要とする程度でもない場合、その後どうすればよいかわからない。
- 心配事が増える。
- 何が問題で、何が言いたいのかよくわからない。
- 結果票の記載方法と面談内容で親の不安が増える。

【園】

個別面談は保護者にとって有効と
思われますか？



	有効と思う	有効と思わない	どちらでもない	無回答
園数 (園)	16	0	4	1
割合 (%)	76.2	0.0	19.0	4.8

<「有効と思う」と回答された中の主な意見内容>

- 保護者に安心してもらえる。
- 保護者に子どもの得意・不得意を認識してもらう良い機会となる。
- 園が、個別面談に参加することによって、今後の子どもへの関わり方を保護者と一緒に考えていくことができる。
- 保護者にどのように伝えるのか、園と子ども家庭支援課が相談できてよい。
- 丁寧に話をしてもらった。
- 専門機関の方に話してもらうことで、保護者の受け止め方が違うと感じる。
- 今のままでよい。
- 園としては面談できてよかった。保護者によって受け止め方が違うので、今後のフォローのあり方は個別に考えていくべきだと思う。

<「どちらでもない」と回答された中の主な意見内容>

- 子どもの発達の状況について、受け入れ難い保護者の対応が難しい。そのため、日頃から子どもについて、保護者と話し合い、信頼関係を構築することが大切であると思う。
- 個別面談は市が主体で行ってはどうか。園の責任でこの健診が行われているように感じた保護者もあり、保育に影響が出る可能性があるのではないか。
- 伝えた後、どうしていくのかという部分が具体的でない。園側のフォローが必要であった。

④事業への意見（自由記載）

○自由記載の中でよい点、改善すべき点、その他を分類して記載

【保護者】

<「よい点」と回答された中の主な意見内容>

- 今後も事業を継続してほしい。
- 自分の子どもに不安なことがあれば参考になる。
- 早い段階で苦手なことがわかると先生や親もいろいろと対応ができる。
- 園で集団に適応できているかがわかってよかった。
- 小学校へ就学するまでのこの時期に健診があると良い。
- 発達についてみてもらう機会が増えるのは良い。
- 健診をうけて安心した。

- 健診後、園の先生にも気にかけてもらっていることがわかり有難い。
- 集団適応に対する不安でモヤモヤした気持ちがすっきりした。

<「改善すべき点」と回答された中の主な意見内容>

<結果票について>

- 結果の「おおむね良好」の意味がわからない。
- 結果票にもっと詳しく記載してほしい。
- 健診の内容や、何を基準に適応力を診断しているかよく分からない。
- 健診の目的や必要性、活用方法を説明してほしい。
- 既に支援されている子どもに対する結果票の内容がない。

<内容等について>

- 健診後の対応や関わりを詳しく聞きたかった。健診後の成長についても様子を聞きたい。
- 全員に個別面談をしてほしい。
- 子どもの月齢が低いほど、月齢差は大きいので内容の配慮をしてほしい。
- 初めての人がたくさん見に来て、普段の様子が見られるのかと思う。
- 結果票配布から面談希望日の聞き取りまでの期間が長すぎる。
- 問診票に記載した心配事に対する返答がない。
- 結果票だけでなく、園の先生から説明して渡してほしい。
- 欠席したため、次に受けられる機会がなく残念だった。
- フォロー体制を充実させることの他に、保護者への啓発を行うと良い。
- 保護者が子どもの困っている点に気づけないと、不安をあおるだけの結果になりかねない。
- アンケートを行わなくても良い。資源や労力、保護者の負担のデメリット。

<その他>

- 適応できる、適応できないではなく、一人ひとりを大切にす支援のあり方を考えていけるような事業になっていくと良い。
- 子どもたちをサポートしていただける市であって欲しい。
- この事業を年少のときに実施した方が良い。
- 就学前の心配事などを相談できる機会があると良い。
- もっと前からあればよかった。
- 健診に携わるのは的確に判断する目が必要。本格的にこの健診を取り入れるのであれば、研修体制の整備、人数（職員）の確保が必要。

- 1日だけの園での姿で、わかるものなのかは疑問に感じた。
- 大切に育ててきた子どもをこんな健診で判断されるのは不快。

【園】

<「よい点」と回答された主な意見内容>

- 始まったばかりなので、戸惑ったり何をするのか不安だったりする保護者もいると思うが、続けていくことで当たり前になるのではないかと。
- 要支援の子どもについて、CLMやカンファレンスを通じて子ども理解ができたことがよかった。
- この機会に支援をしていきたい。保護者に理解をしていただき、一緒に考えていけるようになったことは良かった。

<「改善すべき点」と回答された主な意見内容>

- 園の見立てとは違う結果がでた場合、園として保護者対応が難しかった。
- 園の担当は年間同じ人で進めてほしい。担当者が代わると、始めから説明する必要がある。
- 園での様子を伝える良い機会にはなったと思うが、もう少し詳しく結果を伝えられると、保護者もより理解できたと思う。
- CLMはなかなか難しい。できることなら個別の関わり方の具体的なアドバイスをもらえるとよかった。また、CLM対象児だけでなく、他の要支援判定となった子どもや、見守り判定となった子どもも継続して見てほしい。
- 目的は良いことであると思っているが、この事業をこなしていこうという感じがあり、全てにおいて配慮が不足している。体制を含めて、見直す必要があるのではないかと。現場を無視している感じがする。

<その他>

- 有意義な健診になることを祈る。
- 始まったばかりで難しくはあるが、子どもたちにとって決めつけのためのものでなく、大切なものとなればと考える。
- 集団性を育てている園としては、健診の際の記録をもらえると担任の参考になる。また、適応する、しない等の健診で終わらず、一人ひとりの適性に合った関わりを考えあうことにつながっていくような健診になってほしい。
- 全ての保護者が安心して前向きな育児につながる健診であってほしい。

7) まとめ

平成29年度は、モデル園を公立幼稚園・保育所20園と、私立幼稚園・保育園・認定こども園4園に拡大し、健診の内容は公立園・私立園を問わず実施できる内容であることが確認できた。

判定基準等に差が生じないために、集団観察の視点を定め、観察した内容を点数化・マニュアル化したことで客観的に判定しやすくなった。

個別観察では、月齢により結果に差があるため、月齢を加味した配慮が必要となった。本市独自の判定基準をつくるため、今年度受診した対象児の個別観察データを集積し、平成30年度に向けて各項目の通過率を出すこととした。

結果票については、子どもの姿をわかりやすくするために、5つの観察点【①大人からの働きかけを受け入れ応じる力 ②人とかかわる力 ③身体の発達（身体の動き・手先の器用さ） ④ことばの発達 ⑤緊張や不安なく対応する力】について、苦手な項目がわかるように○印を記す様式に変更した。これにより、子どもの苦手な様子は伝えられるようになったが、「簡潔すぎる」「わかりにくい」などの意見もあり、平成30年度に向けて、さらに結果票の改善が必要となった。

結果伝えは、改善を重ねることで少しずつ伝え方が統一され、徐々に保護者に安心していただける伝え方に改善されてきた。

健診後のフォローについては、園でCLMを取り入れた支援を継続した結果、子どもの姿に変化がみられ、健診結果に納得されなかった保護者が、卒園時には在籍園に感謝の言葉を伝えられたという好事例もあった。このことから、在籍園の先生の協力と継続した支援の必要性を感じた。

保護者のアンケート結果から、健診を有効と感じる保護者は多かったが、健診に対して否定的な印象を持った保護者もいた。健診の内容や目的の周知が不十分であることがわかり、平成30年度の全園実施に向けて、ポスターやチラシを保護者や医療機関、公共施設、各園に配布し、健診事業の内容を周知することとした。

対象児の理解を深める必要から、健康づくり課と乳幼児情報を共有するために、システムを改修した。そのことにより事務の効率化にもつながった。また、5歳児健診と3歳児健診の結果の相関関係などの統計処理も可能となった。

平成28年度に受診した子どもが、平成30年度に小学校へ就学するため、教育委員会や小学校との連携をより深めていく必要がある。

平成30年度に向けて、結果の伝え方や結果票の内容、フォローの方法については継続して検討を重ねていく必要がある。

(3) 平成30年度

1) 実績

①実施園等

	実施園 (実施回数)	対象園 (実施回数)
園健診	60 (86)	公立保10 (13), 公立幼11 (14) 私立保29 (34), 私立幼 6 (19) 認定こ 3 (5), 認可外 1 (1)
在宅児等 健診	3 (6)	市役所西館 1 (2), 保健センター 1 (2) 子育て応援館はぐはぐ 1 (2)

②受診状況

<受診率>

対象児 (人)	受診児 (人)	受診率 (%)
1,787	1,690	94.6

<在宅児等健診受診状況> (再掲)

	対象児 (人)	受診児 (人)	受診率 (%)
在宅児	96	30	31.3
園欠席児	61	41	67.2
計	157	71	(平均) 45.2

※ 対象児157人は上記の表の1,787人に、受診児71人は1,690人に含む。

<未受診の理由>

未受診児 (人)	未受診理由			未受診 (%)
	受診に対する 同意なし	退園等	欠席等	
97	3	8	86	5.4

③健診実施時期

実施時期
平成30年5月24日～12月18日（園健診） 平成31年1月9日・29日，2月7日（在宅児等健診）

④判定結果（受診児内訳）

	受診児	良好	見守り	要支援	既支援
人数（人）	1,690	1,037	451	128	74
割合（％）	100	61.3	26.7	7.6	4.4

⑤5歳児健診と3歳児健診結果との関連性

		3歳児健診判定区分				
		課題通過	要指導	要経過観察	未受診	計
		人（％）	人（％）	人（％）	人（％）	人
5歳児健診判定区分	良好	670 (64.6)	182 (17.5)	123 (11.9)	62 (6.0)	1,037
	見守り	207 (45.9)	103 (22.8)	105 (23.3)	36 (8.0)	451
	要支援	23 (18.0)	21 (16.4)	72 (56.2)	12 (9.4)	128
	既支援	3 (4.1)	4 (5.4)	65 (87.8)	2 (2.7)	74
	未受診	26 (26.8)	11 (11.4)	14 (14.4)	46 (47.4)	97
	計	929	321	379	158	1,787

★5歳児健診と3歳児健診の結果について

平成30年度の結果においても平成29年度と同じような傾向が見られた。5歳児健診で要支援判定となった子どもは，3歳児健診でも「要経過観察」結果である傾向が強かった。また，5歳児健診で良好判定となった子どもは，3歳児健診でも約6割が「課題通過」結果であることが分かった。

既支援判定となった子どもに関しては，3歳児健診で「要経過観察」結果が約9割弱を占めている。

2) 園健診でのフォロー状況

＜要支援判定となった子どもの健診後のフォロー内容について＞

- 実施園がCLM又は支援計画表のどちらかを活用して支援を行う。子ども家庭支援課職員と一緒に支援方法を考える。
- 子ども家庭支援課職員が健診後に観察を行い、健診の数か月後に実施園での観察を行い、担任から様子を聞き取り、保護者へ電話で伝える。
- 臨床心理士等が、専門的な見地から支援方法等のアドバイスを行う。

＜フォロー数と支援内容について＞

(人)

園区分	フォロー数と支援内容				
	要支援	既支援		見守り	
公立保	18	4	観察 支援の提案 保護者連絡	1	観察 支援の提案 保護者連絡
公立幼	14	5	観察、面談 支援の提案 保護者連絡	0	
私立幼	24	1	観察 支援の提案 保護者連絡	0	
私立保 認定こ 認可外	58	3	保護者面談	4	観察 支援の提案
計	114	13		5	

<臨床心理士等による健診・フォローへのアドバイス状況について> (回)

園区分	子ども家庭支援専門 アドバイザー等	子ども家庭支援課の 職員	計
公立保	2	5	7
公立幼	1	4	5
私立幼	3	11	14
私立保 認定こ 認可外	11	15	26
計	17	35	52

<要支援判定となった子どもへのフォロー実施状況>

(CLM又は支援計画表)

(人)

園区分	CLM	支援計画表
公立保	2	12
公立幼	5	13
私立幼	1	24
私立保 認定こ 認可外	2	56
計	10	105

- ・5歳児クラスへ進級後も観察を行い、必要に応じて実施園とともに支援方法の検討を行った。



3) 取組の詳細

項目	月 日	内 容
検 討 会 議	第1回： 5月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画と健診の日程について ・内容と結果票について ・健診後及び就学後のフォローについて ・在宅児への対応について
	第2回： 10月 3日	<ul style="list-style-type: none"> ・経過報告（実績等） ・今後の予定（在宅児等の健診）について ・健診の成果と課題について ・県内の動向について（5歳児健診の実施状況）
	第3回： 3月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・結果の報告と検討課題について （フォロー・アンケート結果を含む） ・次年度の計画について （実施方法，結果伝え，就学後のフォロー等）
ワ ー キ ン グ 会 議	第1回： 4月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の経過報告 ・第1回検討会議での内容について
	第2回： 8月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・経過報告 ・健診方法について ・フォローについて ・小学校への引継ぎについて
	第3回： 3月 4日	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の経過報告 ・第3回検討会議の内容について ・アンケートの結果について ・次年度の健診計画について
研 修 会 ・ 講 演 会 ・ 説 明 会 等	4月16日	・公立幼稚園長会において健診方法等の説明
	5月 9日	・公立保育所長会において健診方法等の説明
	5月23日 24日	<ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園保育所研修 「CLMと個別の指導計画」について 講師：子ども家庭支援課職員
	6月 2日	・私立保育連盟主任会において健診方法等の説明
	12月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校医会研修会への講演 「鈴鹿市の集団適応健診について」 講師：子ども家庭支援課長

項目	月 日	内 容
研修会・講演会・説明会等	1月19日	<ul style="list-style-type: none"> 発達に関する講演会 「5歳児健診の意義について～集団適応健診の本格的な実施にむけて～」 講師：国立研究開発法人 国立成育医療研究センター こころの診療部 統括部長 小枝 達也 氏
	2月21日	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児健診勉強会 「5歳児の発達について」 「集団適応健診の観察について、よく見る様子とその手立て」 講師：臨床心理士 鈴木 智裕 氏

【発達に関する講演会 1月19日】



4) 実施後の課題及び令和元年度に向けた対応

項目	実施後の課題	令和元年度に向けた対応
判定基準	<ul style="list-style-type: none"> 観察の視点はほぼ統一されたが、観察員によって集団場面での判定の基準を標準化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士による、「集団観察の見方」の研修会を行い、判定基準の統一を図った。
	<ul style="list-style-type: none"> 健診の判定の精度を上げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全園に臨床心理士が同行し、保健師、保育士、教員と様々な視点から判定を総合的に考えていくこととした。
結果の伝え方	<ul style="list-style-type: none"> 結果票に、「具体的な支援内容が書かれていないため不安になる」との意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果票（参考資料⑤）に、健診で見られた良い姿や、苦手な姿を記載することとした。 苦手な姿に対しては、保護者が家庭で実施できる関わり方について記載することとした。 受診児の保護者に、子どもへの対応についてのチラシ「すこやかな成長を願って」（参考資料⑩）を同封することとした。
周知	<ul style="list-style-type: none"> 健診の趣旨と内容がわからないという意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 4歳児クラスの保護者に対し、4月に健診のチラシを配布することとした。 健診1か月前に、健診日程の案内や問診票とともに、健診でのポイントを記載した案内文書を同封することとした。
	<ul style="list-style-type: none"> 5歳児健診の目的や内容を伝えることはできたが、さらに内容等の周知を拡大していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 健診のチラシやポスターの配布先に、調剤薬局や図書館、認可外保育施設、児童発達支援事業所等を増やし、配布した。また、主任児童委員等にも配布した。 テレビ広報すずかで5歳児健診の目的や取組、内容を周知することとした。 公私立保育所（園）、幼稚園長会等で健診の目的や、内容を周知した。

項目	実施後の課題	令和元年度に向けた対応
早期支援	<ul style="list-style-type: none"> 受診した子どもに対して、健診後の継続的な支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 健診後フォロー、5歳児フォロー、就学後フォローとして、子ども家庭支援課職員が年3回程度の観察を行うこととした。 観察した旨のメッセージ(参考資料⑪)を保護者に配布することとした。 健診およびフォロー(健診後、5歳児、就学後)については、教員・保育士・保健師がチームとなって行うこととした。 結果伝えの際に「すずっこスクエア※¹」(参考資料⑫)を紹介し、利用を勧めることとした。
	<ul style="list-style-type: none"> 適切な支援方法の提案を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既支援判定となった子どもに対しては、要支援判定となった子どもと同様に、必要に応じて園と相談し、面談を行うこととした。 5歳児クラスへ進級後に観察を行い、必要に応じて実施園に支援方法を提示し、保護者に対しては就学に向けた相談を行うこととした。(CLM, 保護者への連絡, 就学の相談, すずかっ子支援ファイル, 引継ぎ支援会議等)
	<ul style="list-style-type: none"> 要支援判定となった在宅の子どもへの支援をどのように行っていくか検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 健診後に入園した子どもに対しては、継続して園へ観察に行き、様子を保護者に伝え、引継ぎ支援会議などを行った。 在宅の子どもや市外園に在園している子どもに対しては、保護者に電話連絡を行い、「すずっこスクエア」を紹介することとした。

項目	実施後の課題	令和元年度に向けた対応
小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校と健診結果の情報共有や継続的な支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 就学後、子ども家庭支援課職員が年3回程度の定期的な観察を行い、小学校と子どもの様子について情報共有をし、支援方法の検討を行った。 小学1年生の保護者に「すずっこスクエア」の案内を配布した。
医師会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 周知が不足しているため、周知の充実の提案を受けた。 要支援判定及び見守り判定となった子どもの就学後の様子を継続的に見ていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師会からの提案により、学校医会研修会で本市の5歳児健診について報告を行った。 就学後定期的に観察をし、学校や保護者と子ども家庭支援課職員が情報共有を行った。
との連携 関係機関	<ul style="list-style-type: none"> 健診後に子どもの支援や保護者の相談を行う場所を教育と連携して実施する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会と連携して、「すずっこスクエア」を開所し、対応を行うこととした。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 新規場面で緊張する子どももいるため、判定の正確性に欠けるのではないかという意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 健診従事者が普段の園での様子を聞き取り、判定の材料とすることとした。
	<ul style="list-style-type: none"> 事前資料を作成するうえでは、正確に入力するための工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 健診結果をデータ化し、観察シートや結果票等を出力することで正確性を向上させた。
	<ul style="list-style-type: none"> 「集団適応」という名前に違和感があるという意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 名称を「5歳児健診」（集団適応健診）に変更した。
	<ul style="list-style-type: none"> 外国籍の子ども、保護者等に言語の対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 母語協力員^{※2}を配置し、健診当日や保護者面談に同行することとした。
	<ul style="list-style-type: none"> 住民票が市外の子どもへの対応を検討する必要性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 健診は対象外だが、参加については園と協議することとした。

※1 すずっこスクエア…

文部科学省と厚生労働省から出された「トライアングル」プロジェクトをふまえ、令和元年7月に旧幼稚園園舎を活用して開設された場所のこと。

来所した子どもには、集団生活を通して、SST（ソーシャルスキルトレーニング）等を行う。保護者に対しては、子育て等に関する相談に応じたり、福祉制度の利用方法や、関係施設や関係機関の紹介等の情報提供を行ったりする。対象は、5歳児健診対象児から小学1年生までの子どもと保護者とし、臨床心理士・保健師・教員・保育士等が対応。

※2 母語協力員…

日本語の理解が難しい子どもや保護者に対して母国語で通訳や翻訳を行うために配置した協力員のこと。

【すずっこスクエア】



5) 5歳児健診のアンケート結果

○対象数 【保護者】 1, 614人

【園】 60園

○有効回答数

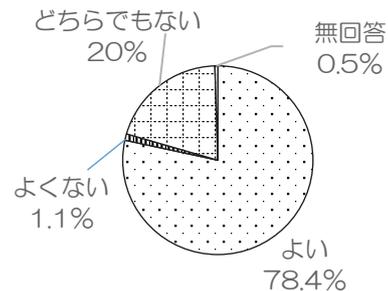
【保護者】 1, 396人 (86. 5%)

【園】 58園 (96. 7%)

①5歳児健診の有効性について

【保護者】

スムーズな就学のために5歳児健診を行うことについてどう思われますか？



	よい	よくない	どちらでもない	無回答
人数 (人)	1, 094	16	279	7
割合 (%)	78. 4	1. 1	20. 0	0. 5

< 「よい」と回答された主な意見内容 >

- ・子どもの苦手なところを早期発見し、就学に向けて早くから考えることができる。
- ・集団の中で子どもの様子や成長がわかる。
- ・第三者が客観的に見る機会は貴重なのでよいと思う。
- ・保護者がわからない普段の姿を見てもらえる。
- ・適応しているとわかれば安心につながる。
- ・スムーズな就学につながるのであればよい取組だと思う。
- ・子どもの理解につながる。
- ・集団に適応しているかどうかがわかる。
- ・保護者が気付かないところを発見してもらえるのはよい。
- ・個性を知り、それぞれに合った接し方や支援を受けることができるようになる。
- ・就学前のこの時期に健診することは重要だと思う。

- ・子どもの成長について考え、相談するきっかけになる。
- ・今後の子育ての参考になる。
- ・子どもの就学について、早くから検討することができる。
- ・自分の子どもの抱えている不安が解消される。
- ・在籍園での健診は緊張が少なく、いつも通りの姿が見られることになり、よいと思う。
- ・子どものことについて先生と話をしやすくなる。
- ・行政のサポートにつながり、家庭と園だけでなく、いろいろな立場から子どもの育ちを考えていくことができる。

<「よくない」「どちらでもない」と回答された主な意見内容>

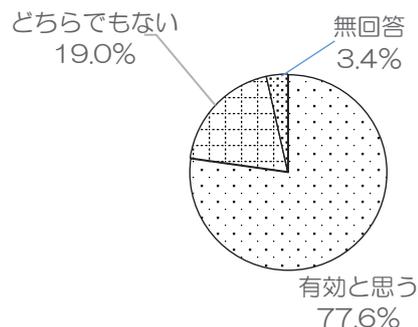
- ・どのような健診内容かわからない。
- ・今後どうしたらよいか不安になる。
- ・数時間見ただけで判断されることに疑問（不安）である。
- ・緊張した状態では正確な判定にならないのではないかと。
- ・健診後のフォローがないと意味がない。
- ・健診だけではわからないことがある。
- ・「集団適応健診」という名称が気に入らない。
- ・月齢差があるので正確な結果がでないのではと思う。
- ・適応できると思っていたため、健診の結果がよくないとショックである。
- ・本当にスムーズな就学につながるのか疑問である。
- ・個性を大切にしたい。
- ・詳しい結果が知りたい。
- ・園の集団と小学校の集団には差があると思う。
- ・偏見につながるのではないかと。

【健診の様子】



【園】

スムーズな就学のために5歳児健診を行うことは有効と思われますか？



	有効と思う	有効と思わない	どちらでもない	無回答
園数(園)	45	0	11	2
割合(%)	77.6	0	19.0	3.4

<「有効と思う」と回答された主な意見内容>

- 子どもの様子を保護者に早めに伝えるきっかけとなり、気になる子どもへの対応ができる。
- 小枝先生の研修で5歳児健診の位置づけを聞き、より必要性を感じた。
- 園の中で気がかりな子どもに関して、専門的な、しっかりとした裏付けのある問診や面談により判断されるので結果について保護者の理解を得やすい。
- 結果を踏まえ、就学までの間に、園や家庭で相互的な対応ができる。
- 就学にスムーズにつながる。
- 園等と、小学校、市の関係機関がつながることはよいことだと思う。
- 園での子どもの姿から、保護者に向けて、いろいろな話ができるよい機会となる。

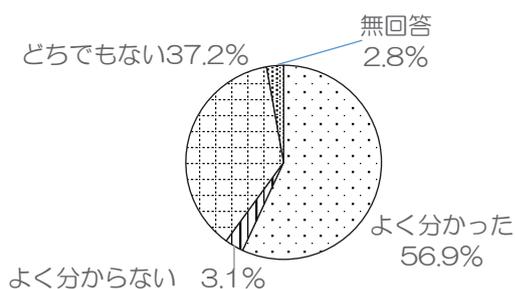
<「どちらでもない」と回答された主な意見内容>

- その時の姿だけで判断できない部分がある。
- 全員対象でなくてもよいのではないかと。
- 第三者の目から見てもらえることは良かった面もあると思うが、健診の内容や結果、保護者との連携の取り方、気になる子への手立て等、不明確なことが多く、園としてどう動けばよいのか分からなかった。
- なぜ5歳児健診をするのか、保護者が十分理解できていないように思った。

②結果伝えについて（結果票の内容）

【保護者】

結果票の内容についてどのように
思われましたか？



	よく分かった	よく分からない	どちらでもない	無回答
人数（人）	794	43	519	40
割合（%）	56.9	3.1	37.2	2.8

<「よく分かった」と回答された主な意見内容>

- ・分かりやすくてよかった。
- ・安心することができた。
- ・今後の関わり方がわかった。
- ・子どもの集団生活での様子を知ることができるよい機会になった。
- ・保護者の目の届かないところでの性格や傾向を知ることができた。
- ・結果が気になったので、結果票で知ることができてよかった。
- ・参考になった。
- ・納得できるものだった。
- ・子どもの苦手とすることに気付くことができた。
- ・順調に成長していることがわかってよかった。

<「どちらでもない」「よく分からない」と回答された主な意見内容>

- ・結果が曖昧なため、もう少し具体的に知りたかった。
- ・その後どうしたらよいかわからず、不安になった。
- ・正確性に欠け、結果に納得がいかない。
- ・どのような健診を行っているかわからない。
- ・結果が出るのが遅い。
- ・個人差があるのでわからない。

③結果伝えについて（個別面談）

【保護者】

個別面談についてどう思われましたか？

（「あった」と回答した人のみ 67人回答）

（複数回答）

	よく 分かった	心配事が 解消できた	安心できた	どちらでも なかった
人数（人）	27	10	15	3
	不安に なった	よく 分からなかった	心配事が できた	その他
人数（人）	14	4	13	7

＜「よく分かった」「安心できた」等と回答された主な意見内容＞

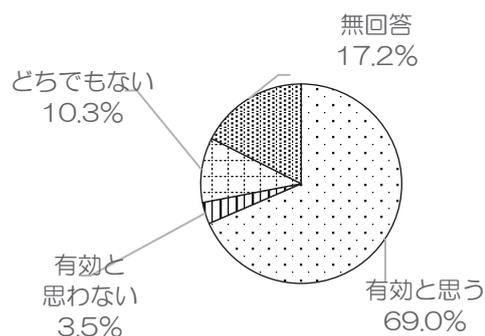
- 子どものできる面とできない面がわかった。
- 苦手なことだけでなく、良かったことも伝えてもらったので、家でも注目する機会が増えた。
- 子どもの個性を理解し、対応していく上で大事なことをたくさん知ることができた。
- 園で、子どもが何に困っているかがわかった。

＜「よく分からなかった」「不安になった」等と回答された主な意見内容＞

- 面談を行う際には、具体的な伝え方をした方がよいのではないかと思う。
- 数値的な記録がある場合は、提示してもらおうとわかりやすい。
- 特に解決につながることを言われていない。

【園】

個別面談は保護者にとって有効と
思われますか？



	有効と思う	有効と思わない	どちらでもない	無回答
園数 (園)	40	2	6	10
割合 (%)	69.0	3.5	10.3	17.2

<「有効と思う」と回答された主な意見内容>

- 面談で健診時の様子を伝えることができるので、保護者の気になっていたことや、疑問に思っていることをお互いに共有できた。
- 保護者の不安感を共有し、一緒に子どもについて考えていくためのよい機会となった。
- 結果票だけでは伝えきれない健診内容や、そのときの子どもの様子、今後の見通し等について話し合えたことで保護者の安心につながった。
- 専門機関からの説明は保護者が納得し受け入れやすいように思う。
- 保護者がすずかっ子支援ファイルの作成を考えるきっかけになった。

<「有効と思わない」「どちらでもない」と回答された主な意見内容>

- 保護者への具体的なアドバイスがなかったように思う。面談となると保護者は何をどのようにしたら子どもがよくなるのかを求めるのではないかと。
- 心配材料として残してしまったのではないかと。
- 子どもの特性を受け入れられない保護者に対しては、もう一步踏み込んだ話があればよいと思う。今後のフォローにつなぐことができる内容であってほしい。
- 保護者によってタイミングが難しいと感じた。
- 具体的に伝えないとわからないのではないかと感じる。
- 健診の結果を受け入れられる保護者には有効であると思われるが、受け入れられない保護者にとっては、逆効果だと思う。

④事業への意見（自由記載）

○自由記載の中でよい点、改善すべき点を分類して記載

【保護者】

<「よい点」と回答された中の主な意見内容>

- これからも継続して行ってほしい。
- 早い段階で気づくことができれば、対応がわかり、子どもも保護者も過ごしやすく、子どもに合ったペースで一緒に成長し、歩むことができると思う。
- 結果がどうであっても、保護者が不安がるだけでなく、その先の相談をしたり、考えたりする道しるべができてよいと思った。
- 健診の内容を就学先の小学校と共有をすることで、よいかたちで就学を迎えられることを望む。
- 仕事を休まずに見てもらえるのでよかった。
- 家庭の中で、子どもの苦手なことに気づくのは困難なことだと思うので、本格的な集団生活に入る前に支援やサポートをしてもらえることはありがたい。

<「改善すべき点」と回答された中の主な意見内容>

- 将来的にどのようなゴールをめざしているのか、具体的なことを知らせるべきだと思う。
- 集団に適應していないと異常に思ってしまうようなネーミングは嫌悪感を与える。もっと、ともに支援していくという姿勢を前面に出してほしい。
- 負担にさせられるだけ。問題があるなら、具体的にどうすればよいかのアドバイスがほしいと思う。
- 何の目的でしているのかわからない。「やっています」という市側の満足だけにしか思えない。
- 評価された側が、結果を見てよくわからないのは、やっている意味がない。数値化してほしい。
- 子どもの個性を尊重し、社会全体として育成していけるように、事業を発展させてほしい。

【園】

<「よい点」と回答された主な意見内容>

- ぜひ、来年度も継続してほしい。
- 乳幼児期の様子と5歳児健診を重ねることで、より子どもの理解を深めることができた。
- 大変だとは思いますが大切な事業だと思う。

<「改善すべき点」と回答された主な意見内容>

- この健診を行う目的、意図をより周知していく必要性を感じた。
- 保護者の方の中には受け取り方がいろいろで、理解をしてもらうことや、結果の伝え方の難しさを感じる。
- 要支援判定となった子どものフォローはもう少し丁寧にしてもよいのではないか。
- 「健診をしました」というだけに終わったように思う。見守り判定となった子どもについても、保護者からすると不安材料が残る結果だった。あれだけの人が各園に出向いているのであればもっと巡回指導に力を入れるべきである。
- 心理士が来ている園にとっては必要ないと思う。



6) まとめ

平成30年度は、全ての満5歳児が対象となり全園で健診を行った。また、在宅（欠席児を含む）の子どもは、市内公共施設で実施した。

医師会との連携については、全ての健診の監修を受け、園医や実施園の先生、健診従事者が、健診や園での子どもの様子を共有し、園医の助言により子どもの支援内容を深めることができた。また、健診の実施時期により生じる月齢差への対応が必要であるため、個別観察では、平成29年度のデータから月齢別の通過率をもとに判定することに変更した。業務量の増加に対応するため、保健師や保育士を増やすなど、職員体制の充実を図った。

健診後のフォローは、定期的に園の観察を実施し、臨床心理士が同行して具体的な支援方法を提示した。子どもの現状に合わせた支援を実践し、その方法を5歳児クラスへと継続した。

健診後の継続的な支援として、平成28年度に受診した子どもの就学後の様子を観察した。集団生活になじめなかったり、不登校をおこしたりすることもなく、早期からの適切な支援を園と小学校が連携し、継続して行うことが有効であるということが実証された。

また、アンケートでは、約8割の方が、健診を肯定的にとらえているが、結果の伝え方やフォローの充実を希望する意見があった。結果の伝え方では、健診での様子やよいところを含めて伝え、結果の伝え方に工夫が必要であった。園との連携は、保護者支援においても重要であることが分かった。また、安心して子どもや保護者が健診できるようポスターやチラシ、広報等で継続して周知を行った。

健診の実施が2回目の園では、健診方法の理解が進み、子どもに応じた支援方法を園が実践するようになった。欠席児の健診については、園での様子がわからないため、判定を出すときには苦慮することもあり、園との連携の重要性を感じた。また、日本語の理解が難しい子どもや保護者に対しては母語協力員を配置し、通訳や翻訳を行うことで、安心して健診を受けることができた。さらに、多様な言語にも対応できるよう母語協力員の充実を図ることが必要である。

健診従事者として、適切に子どもの様子を把握できるよう、継続して研修会や子ども家庭支援専門アドバイザーと協議をし、スキルアップを図った。

全ての満5歳児を対象に実施することで、健診事業の全体を見通すことができた。平成31年度（令和元年度）は、子育て支援の視点を取り入れた健診となるように教育と福祉が連携した支援体制づくりの必要性を感じた。

(4) 3年間の検討会議委員名簿

1) 平成28年度

	名前	所属	役職
医師会	西城 英郎	西城外科内科	会長
医師会	二井 栄	白子ウイメンズホスピタル	副会長
医師会	尾崎 郁夫	おざき内科クリニック	理事
医師会	駒田 幹彦	駒田医院	理事
鈴鹿市立幼稚園	國分 由美子	鈴鹿市立栄幼稚園	園長（公立幼稚園代表）
鈴鹿市立幼稚園	清水 由紀子	鈴鹿市立神戸幼稚園	園長（モデル園）
鈴鹿市立保育所	竹石 寿美子	鈴鹿市立河曲保育所	園長（モデル園）

鈴鹿市	古市 素朗	子ども政策部	参事
	植田 依子	子ども育成課	課長
	伊藤 京子	健康づくり課	課長
	米川 寿美	子ども家庭支援課	課長
実務者	平田 千尋	子ども育成課管理グループ	副参事兼グループリーダー
	中谷 孝子		副参事
	望月 寿子	健康づくり課母子保健グループ	副参事兼グループリーダー
	清水 かつき		主幹
	高井 晴美		副主査
	岩間 和美	子ども家庭支援課 発達支援グループ	主幹兼グループリーダー
	篠原 純子		副参事

2) 平成29年度

	名前	所属	役職
医師会	西城 英郎	西城外科内科	会長
医師会	二井 栄	白子ウイメンズホスピタル	副会長
医師会	尾崎 郁夫	おざき内科クリニック	理事
医師会	駒田 幹彦	駒田医院	理事
認定こども園	服部 高明	サン認定こども園	園長（モデル園）
私立幼稚園	後藤 明子	第二さくら幼稚園	副園長（モデル園）
私立保育園	澤田 恭子	くまだ保育園	園長（モデル園）
私立保育園	卯 敬子	高岡ほうりん保育園	園長（モデル園）
鈴鹿市立幼稚園	中野 あけみ	鈴鹿市立旭が丘幼稚園	園長（モデル園代表）
鈴鹿市立保育所	佐波 孝子	鈴鹿市立牧田保育所	所長（モデル園代表）

鈴鹿市	古市 素朗	子ども政策部	参事
	坂本 悦子	子ども育成課	課長
	伊藤 京子	健康づくり課	課長
	川北 浩司	教育指導課	課長
	米川 寿美	子ども家庭支援課	課長
実務者	平田 千尋	子ども育成課管理グループ	副参事兼グループリーダー
	中谷 孝子		副参事
	岡田 千麻子	健康づくり課母子保健グループ	主幹兼グループリーダー
	諸岡 あい	教育指導課指導グループ	副主幹
	岩間 和美	子ども家庭支援課発達支援グループ	副参事兼グループリーダー
	望月 寿子		副参事
	篠原 純子		副参事

子ども家庭支援 専門アドバイザー	志村 浩二	浜松学院大学短期大学部	准教授
---------------------	-------	-------------	-----

3) 平成30年度

	名前	所属	役職
医師会	西城 英郎	西城外科内科	会長
医師会	二井 栄	白子ウィメンズホスピタル	副会長
医師会	尾崎 郁夫	おざき内科クリニック	常任理事
医師会	駒田 幹彦	駒田医院	理事
医師会	太田 拓哉	おおたキッズクリニック	理事
認定こども園	服部 高明	サン認定こども園	園長（モデル園代表）
私立保育園連盟	卯 尚史	ほうりん認定こども園	園長（モデル園代表）
公立幼稚園	中村 弥保	鈴鹿市立椿幼稚園	園長（モデル園代表）
公立保育所	今村 揮代美	鈴鹿市立算所保育所	所長（モデル園代表）
学校保健会	米川 寿美	鈴鹿市立玉垣小学校	校長
アドバイザー	鈴木 智裕		臨床心理士
鈴鹿市	山田 純生	教育指導課	教育参事兼課長
	伊藤 京子	健康づくり課	参事兼課長
	坂本 悦子	子ども育成課	課長
	佐野 仁美	子ども家庭支援課	課長
実務者	平田 千尋	子ども育成課管理グループ	副参事兼グループリーダー
	中谷 孝子		副参事
	清水 かづき	健康づくり課母子保健グループ	主幹兼グループリーダー
	諸岡 あい	教育指導課指導グループ	主幹
	望月 寿子	子ども家庭支援課 発達支援グループ	副参事兼グループリーダー
	内田 匡司		副参事
	篠原 純子		副参事
	中村 由美子		主幹
杉本 千雛			
子ども家庭支援 専門アドバイザー	志村 浩二	浜松学院大学短期大学部	准教授

(4) 3年間の変遷

	平成28年度（モデル事業）	平成29年度（モデル事業）	平成30年度（モデル事業）	令和元年度
健診体制づくり	<p>関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭支援専門アドバイザーと協議を重ね、鈴鹿市医師会やモデル園等と連携して体制づくりに取り組む。 体制づくりに向けて検討会議を位置づける。 検討会議前に準備をする会議として実務者会議を位置づける。 	<p>連携し、健診</p> <ul style="list-style-type: none"> 検討会議の内容を反映し、体制づくりをめぐる。 初回実施の園に説明会を行う。 子ども家庭支援課職員（保育士、保健師など）の増員により体制づくりを行う。 	<p>健診体制を構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 検討会議の内容を反映し、体制づくりをめぐる。 満5歳児全員の実施に伴い、全園に説明会を行う。 初めて実施する園については各園に出向いて会場等の調整を行う。 子ども家庭支援課職員（保育士、保健師など）の増員により体制の充実を図る。 	<p>築す</p> <ul style="list-style-type: none"> 健診内容の充実のため、すべての健診に心理士が同行し、日本語の理解が難しい子どもと保護者のために、母語協力員を配置し、通訳翻訳を行う。 途切れない支援のために、教員、保育士、保健師がチーム制を導入し、健診の体制を整える。
健診方法	<p>健診の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 集団観察と個別観察を健診内容とする。 集団観察：園で朝の会やルールのある遊び等を観察する。 個別観察：小枝方式改訂版（三重県医師会）を活用する。 	<p>観察の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 集団観察：観察に自由遊びを加える。 観察のポイント9項目を重点化する。 個別観察：月齢により通過率にばらつきがあるため、月齢の考慮を検討する。 	<p>確立する</p> <ul style="list-style-type: none"> 集団観察：子どもがルールの理解をしているか、わかる遊びを検証して取り入れる。 個別観察：月齢による項目別の通過率を設定し、月齢を考慮して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団観察：健診に心理士が入ることでより子どもの観察基準を統一していく。 個別観察：判断基準を標準化して行えるようにする。
結果の伝え方	<p>保護者に</p> <ul style="list-style-type: none"> 結果票：全員の保護者に文書で伝える。 要支援判定となった子どもには、面談の案内をする。 面談での結果伝え：要支援判定となった子どもの保護者には面談で健診時の様子を伝える。面談の結果伝えの場には園の先生も同席を依頼する。 	<p>わかりやすい結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 結果票：要支援判定となった子どもには、観察の5つのポイントの中での課題を記載する。 面談での結果伝え：健診で見た子どもの様子を伝えるにあたって、保護者の気持ちに寄り添うこと、子どもの得意なところを含めて伝えるように工夫した。 	<p>工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> 結果票：見守り、要支援、既支援判定となった子どもの保護者に、健診の様子が伝わるように内容を記載して通知する形式に変更する。 面談での結果伝え：保護者に支援方法や巡回訪問を行う旨を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果票：見守り、要支援、既支援判定となった子どもは、良い姿と、苦手な様子を記載し、心理士の助言内容や対応方法も記載する。 面談での結果伝え：既支援判定となった中で希望する保護者には面談を実施した。
支援体制	<p>健診後</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備期間を経て、健診の体制づくりを中心に行った。支援体制の構築までは至らなかった。 	<p>支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援方法：CLMを中心とした内容で行う。 小学校との連携：「すずかっ子支援ファイル」を活用し、引き続き支援会議を実施する。 	<p>構築して</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援方法：CLM又は支援計画表を選択する方法とする。 要支援判定となった子ども全員に対し、支援方法の提示を子ども家庭支援課職員が行い、健診後の5歳児クラスを観察し、園との連携を行っていく。 	<p>いく</p> <ul style="list-style-type: none"> 連携支援コーディネーター^{*1}（心理士）を配置し、各園での支援につなげる。 「すずかっこスクエア」を開所し、集団適応コーディネーター^{*2}を中心として子どもの支援や保護者等の相談機能の充実を図る。

周知	平成28年度（モデル事業）	平成29年度（モデル事業）	平成30年度（モデル事業）	令和元年度
周知	<p>5歳児健診の取組内容や意義</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象の子どもの保護者に案内文書で周知する。 モデル園2園の職員に対して説明会を行う。 	<p>5歳児の発達、理解や支援内容を理解し、健診の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象児の保護者へ案内文書を配布し、周知する。 地域の子育てファミリー応援フリーマガジン「きらきら」に市長と子ども家庭支援専門アドバイザーの子育て対談が掲載される。 ポスターとチラシを作成する。 	<p>等々の周知を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> チラシやポスターを活用し、保護者や園、医療機関等へ周知を図る。 その他 広報すずか（6月5日号） テレビ広報すずか（9月放送） 	<p>ていく</p> <ul style="list-style-type: none"> チラシやポスターを作成し、周知を図る。周知先に医療機関、調剤薬局、公共施設等を追加し、配布先を拡大する。 その他 テレビ広報すずか（5月放送）
健診の資質向上	<p>5歳児の発達の発達、理解や支援内容を理解し、健診の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施設や健診実施者を対象に研修会を実施し、健診の目的などの理解を深める。 <p>〈講演会〉 テーマ：「集団参加に必要な力を育てる」 講師：公益社団法人発達協会療育部長 小倉 尚子 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭支援専門アドバイザーと健診従事者が結果伝えについて協議を行う。 	<p>5歳児健診の意義について」 講師：国立成育医療研究センター 小枝 達也 氏</p> <p>健診従事者のスキルアップのため研修を行う。</p> <p>〈研修会〉 テーマ：「集団適応健診の観察についてよく見る様子とその手立て」 講師：臨床心理士 鈴木 智裕 氏</p>	<p>健診の理解を深めるため、園医や実施設、健診従事者を対象に講演会を行う。</p> <p>〈講演会〉 テーマ：「5歳児健診の意義について」 講師：国立成育医療研究センター 小枝 達也 氏</p> <p>健診従事者のスキルアップのため研修を行う。</p> <p>〈研修会〉 テーマ：「集団適応健診の観察についてよく見る様子とその手立て」 講師：臨床心理士 鈴木 智裕 氏</p>	<p>に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者や園医、実施設、児童発達支援事業所等を対象に、講演会を実施する。 <p>〈講演会〉 テーマ：「発達面で気になる子の理解と対応について」 講師：済生会明和病院なでしこ施設長（小児科医師） 山川 紀子 氏</p>

※1 連携支援コーディネーター…臨床心理士の資格を有し、専門的な見地から、観察や面談、個々に応じた支援の提案、就学先の支援会議での助言、引継ぎ支援会議でのコンサルテーション、健診後のフォローの監修等を実施する従事者のこと。

※2 集団適応コーディネーター…「すずこスウェイクア」で保護者の相談や児の発達面での支援について対応方法を助言する従事者のこと。必要時、在園する園や学校と連絡をとり情報共有したり、支援機関の紹介を行ったりする。医師、看護師、教員、養護教諭、幼稚園教諭、保育士、保健師、心理士のいずれかの資格を有する者。

5 5歳児健診の内容（令和元年度）

（1）実施場所

在籍園で実施

市外の園に通園している子どもや在宅の子どもは，市内公共施設で実施

（2）健診従事者

保健師，保育士，教員，臨床心理士の6～10人程度

（3）健診の流れ

時 期	内 容
健診の約1か月前	保護者へ案内・問診票送付
健診当日	健診前カンファレンス，集団観察，個別観察，健診後カンファレンス
健診の約1～2週間後	園医監修により最終判定
健診の約1か月後	保護者へ結果発送
結果通知の約1～2週間後	保護者面談 ^{※1} ，保護者連絡 ^{※2}
健診後4，5歳児クラス	園支援や保護者支援
小学校就学前	就学支援委員会，小学校へ引継ぎ支援会議（必要に応じて）
小学校就学後	就学後フォロー観察

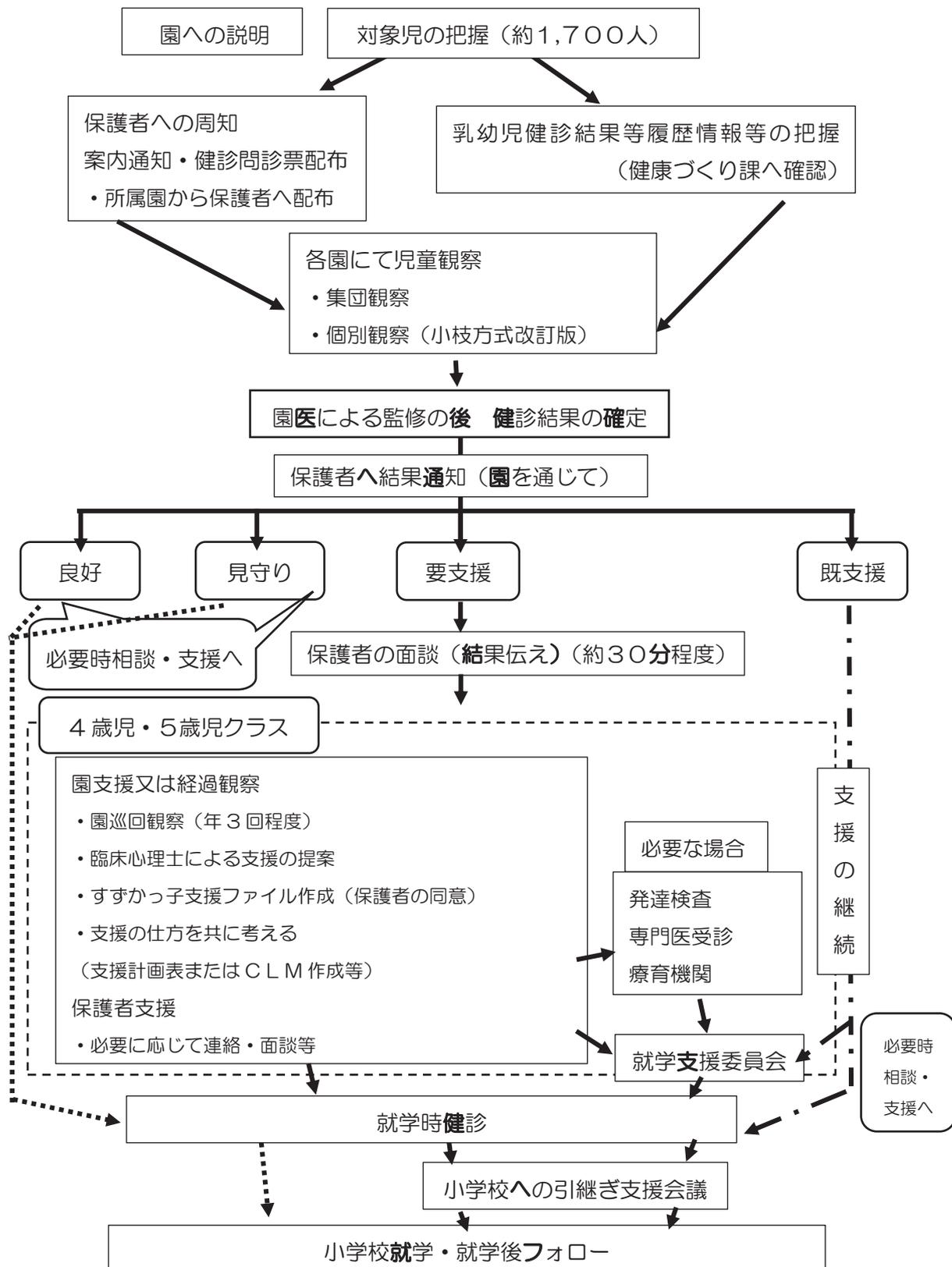
※1 保護者面談…

要支援判定となった子どもの保護者全員と，既支援判定となった子どもの中で希望される保護者を対象に，結果票を伝えた後に実施する面談のこと。健診の様子を伝え，継続して支援の手立てや相談を行うことを伝える。在籍園がある場合は，園で実施する。面談の実施後に保護者に電話をし，園の様子を伝え，子どもの成長等を共有する。

※2 保護者連絡…

良好，見守り判定となった子どもの保護者が，問診票に心配事を記載してある場合等は，必要に応じて電話連絡等を行う。

(4) 健診の流れのフローチャート図



(5) 健診当日の内容

- 健診前カンファレンス…園の先生と健診従事者で実施する。乳幼児健診の情報，問診票の内容，園の先生から聞き取った情報について情報共有を行う。
- 集団観察…自由遊び，朝の会，ルールのある集団遊び，絵本の読み聞かせの様子を観察する。
- 個別観察…健診従事者と1対1でやりとりを行う。内容は，小枝方式改訂版を使用する。
- 健診後カンファレンス…園の先生と健診従事者で実施する。問診票，集団観察，個別観察，普段の園での様子から仮判定を出す。

〈欠席児および在宅児等の健診を実施する場合〉

- 健診内容については，園で行う方法と同様の内容で実施する。
- 保護者の希望により，個別相談を行う。

【集団観察】



【個別観察】

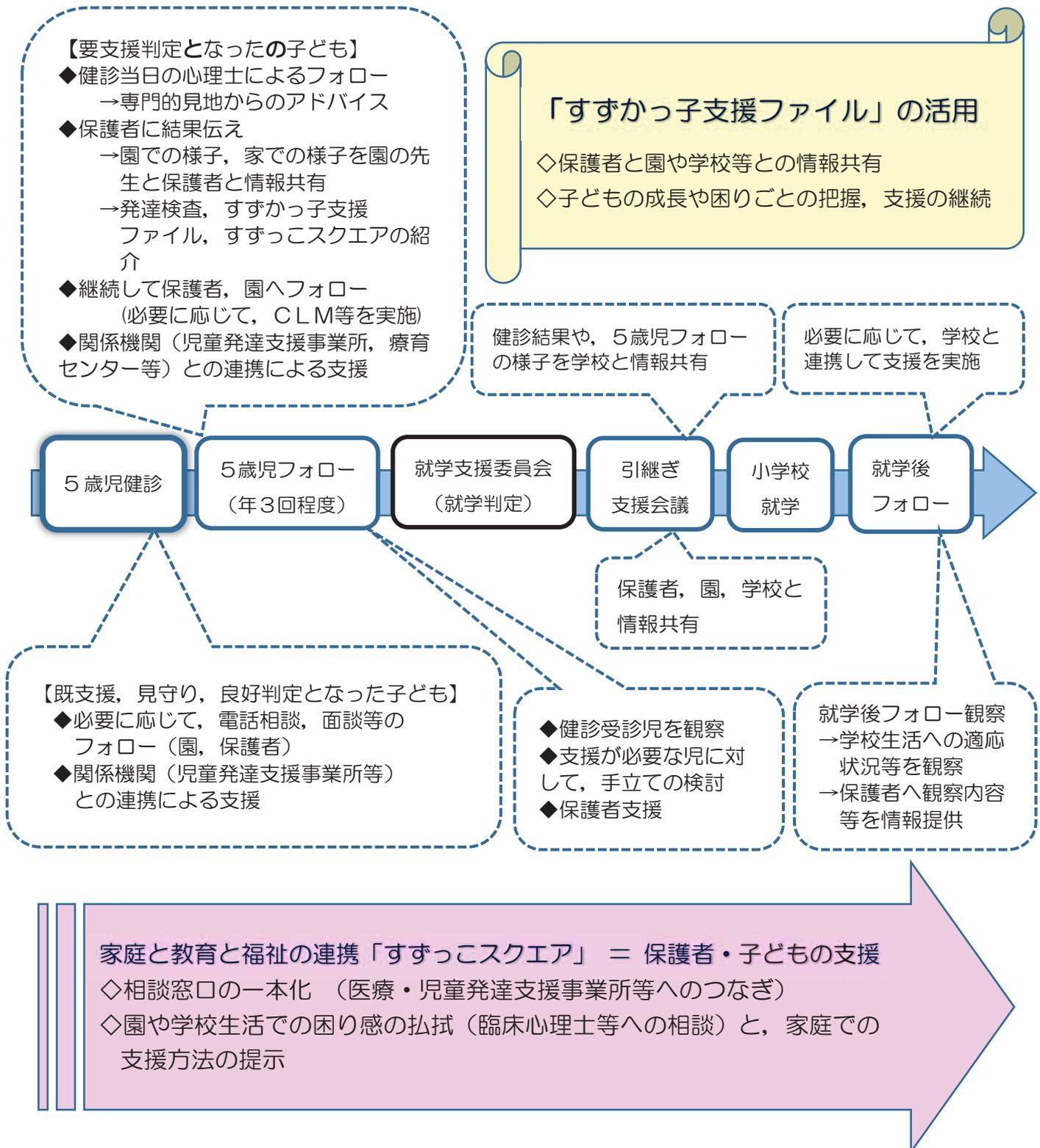


(6) 健診当日のタイムスケジュールと担当

時刻	内容	実施事項	担当	場所
9:00	開始 健診前 カンファレンス (30分程度)	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 タイムスケジュールの説明 個別観察, 集団観察の役割確認等 乳幼児健診情報の共有 問診内容等の確認 園児の追加情報の確認 	園(所)長 主任 担任等 健診従事者	遊戯室 等
9:30	集団観察 (60分程度)	<ul style="list-style-type: none"> 自由遊び30分程度 (片付けを含む) 集団遊び(30分程度) (朝の会・ルールのある 集団ゲーム・絵本) 	健診従事者	保育室
10:30	個別観察 (60分程度)	<ul style="list-style-type: none"> 三重県医師会作成:小枝 方式改訂版を活用 	健診従事者	遊戯室 等
11:30	健診後の カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> 結果の検討 	園(所)長 主任 担任等 健診従事者	遊戯室 等
12:30 頃終了	結果の仮判定			

※ 健診結果の最終判定については、後日、園医に監修を受ける。
医師監修の場合には、園長等に同行を依頼する。

(7) 健診後のフォロー



6 本格実施（令和元年度）の取組

（1）取組の詳細

項目	月 日	内 容
検 討 会 議	第1回： 6月 3日	平成30年度の報告について <ul style="list-style-type: none"> ・ 5歳児健診と3歳児健診結果との関連性 ・ 5歳児健診アンケート結果 ・ 在宅児，欠席児健診アンケート結果 ・ 5歳児健診後の5歳児フォローのアンケート結果 令和元年度5歳児健診について <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画 ・ 健診内容 ・ 結果票 ・ 在宅児等の健診 健診後のフォローについて
	第2回： 3月16日 (予定)	令和元年度の報告について <ul style="list-style-type: none"> ・ 5歳児健診と事後フォローの結果について ・ アンケート結果について 次年度の計画について 等
会 議 ワ ー キ ン グ	第1回： 5月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討会議資料の検討及び情報交換 ・ 健診体制について
主 な 健 診 の 実 施 内 容	5月22日～ 2月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての健診に心理士が同行して実施 ・ 母語協力員を配置 ・ 保育士・保健師・教員のチーム制を導入し，園担当として健診から健診後（就学後まで）フォローを継続的に実施 ・ メッセージを保護者に配布 フォローを年3回程度実施し，観察した旨のメッセージを配布する。
	7月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「すずっこスクエア」を開所

(2) 実績

(令和2年2月末現在)

①実施園等

	実施園 (実施回数)	対象園 (実施回数)
園健診	60 (86)	公立保10(14), 公立幼11(14) 私立保29(36), 私立幼 6(16) 認定こ 3(5), 認可外 1(1)
在宅児等 健診	5 (9)	市役所本館 4(8), 市役所西館 1(1)

※ 集団観察と個別観察と2日に分けて実施した場合は、実施回数を2回と数える。

②受診状況

<受診率>

対象児(人)	受診児(人)	受診率(%)
1,726	1,674	97.0

<在宅児等健診受診状況> (再掲)

	対象児(人)	受診児(人)	受診率(%)
在宅児	77	34	44.2
園欠席児	41	34	82.9
計	118	68	(平均)57.6

※ 対象児118人は上記の表の1,726人に、受診児68人は1,674人に含む。

7 3年間のモデル事業から本格実施へ

3年間のモデル事業の実施から、集団生活の中で、子どもの発達課題に気づき早期に対応できる機会として、5歳児健診の必要性を改めて強く認識しました。

健診の体制づくりにつきましては、医師会の先生方の御助言や子ども家庭支援専門アドバイザーと協議、そして健診を受け入れていただいた園や関係者の方々の御協力のもと体制が整いましたことに感謝申し上げます。健診の実施では、子どもの理解が深まり、関係機関の方と連携して対応することができてきました。

モデル事業の取組の中で、健診を受けやすい環境をつくることや健診の精度の向上、支援の充実、健診から就学後までの途切れのない支援体制づくりなどの重要性に気づくことができました。

そのために、令和元年度からは個々に応じた支援の提案のため、健診時に心理士等が同行することや、日本語の理解が難しい子どもや保護者等の受診や相談しやすい環境づくりのため、母語協力員の配置を行ってきました。健診で支援の必要となった子どもを対象に、園でのかかわり方を心理士が伝え、健診後に園で支援方法を活用する体制をとっています。母語協力員については、個別観察の質問内容を母語で伝えることや、保護者への結果票の翻訳や、結果伝えにおいて通訳を実施することで、安心して健診を受けられるよう体制の整備を行っています。

また、健診後から就学後への途切れのない支援のため、健診からフォローまで多職種がかかわり、チーム制をとり実施しました。教育と福祉の連携については、令和元年度から「特別支援教育プロジェクト会議」が立ち上がり、教育委員会との連携の取組が開始されました。

さらに、文部科学省と厚生労働省の「トライアングル」プロジェクトに基づき、地域・教育・福祉の連携による途切れのない支援のため、旧幼稚園の園舎を活用して「すずっこスクエア」を開所することになりました。発達課題のある子どもや心配のある保護者に対し、相談・支援できる機関として、健診受診後の子どもや保護者が中心に来所され、心理士や教員、保育士、保健師による相談や支援を行っています。子どもの発達に悩みを抱える保護者の方が、すずっこスクエアのスタッフから子どもの接し方のアドバイスを聞くことで安心される様子が見られています。

今後も、5歳児健診においては、子どもの発達課題に早期に気づき、支援することで子どもの個性を生かし自信を深めていけることを目的に取り組み、子どもたちの健やかな育ちのために体制の充実に努めてまいります。

8 子ども家庭支援専門アドバイザーから

鈴鹿市の5歳児健診（集団適応健診）には、試行期間の始まる準備段階から一緒にさせていただきました。「人口20万規模の自治体が」「行政主導で」「該当年齢の子ども悉皆（全員）を対象に」そして「連携を強化するために園を使って実施」する取り組みは、おそらく全国的にも稀有なことでした。途中、子ども家庭支援課の担当スタッフの方々と、何度も投げ出したくなるようなしんどさも感じましたが、3年間を経て、国内どこにも誇れる先駆的な取り組みになったように感じます。

あたたかくも的確なご助言により、ご協力とお力添えを絶やさず下さった、医師会の先生方・園長（所長）先生はじめ保育園（所）や幼稚園の先生方・関係機関の皆さま方には、本当に感謝しかありません。ありがとうございました。

とは言え、これからが本格実施です。まだまだ課題は多いのも事実でしょう。

先ず、3年の努力を経て、「信頼性：『誰が、いつ実施しても』一定の結果を出せる手順ができた＝マニュアル化」の点、この信頼性は相当整ったと思います。このことで、健診の実施者や担当者が交替しても、同じ手順で健診結果を出せるようになったことは大きな成果だと考えます。ただ、「妥当性：健診で『本当に拾うべき子どもを拾えているのか？』＝健診の精度」の完成については、まだ不十分と言わざるを得ないです。これについては、健診スタッフの知識・素養の向上はもちろん、何より経験とセンスを磨く継続努力が不可欠だと言えます。

今後、この信頼性と妥当性とが備わることで、同市の5歳児健診は「鈴鹿市のオリジナルであると同時に、全国のどこでも通用するスキル化された」内実になると実感します。

試行期間が終わったことに安堵するのではなく、これからが本格実施であることを肝に銘じ、とぎれない発達支援を実現するためにも健診のさらなる充実を努力すべきでしょう。

最後になりますが、その老若男女に関係なく、人は「他者に支えられている安心感があって、初めてその本人の持ち味を最大限に発揮できる」のだと思います。その意味で、鈴鹿市の5歳児健診の充実は、健診技術の単なる開発だけでないのはもちろんのこと、「早期発見とフォローのスキル」にとどまるだけでもいけな

いのでしょうか。たくさんの関係者・いろんな専門家が、保護者や子どもたちに関わることによって、「お互いが支えられる実感」を共有し、「『特性を個性に』そして『特徴を長所に』」でき、その親子の力を存分に活かせる、そのきっかけの場となることを、この健診に期待しています。

関係される諸先生方・スタッフの皆さまには、引き続きのご示唆・ご支援のほど、これからもよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。

子ども家庭支援専門アドバイザー 志村浩二

(浜松学院大学短期大学部准教授 臨床心理士)



参考資料集

<健康診査に関すること>

- ①…三重県医師会による5歳児健康診査票（小枝方式改訂版）
- ②…保護者用問診票，担任用問診票
- ③…「子どもの強さと困難さアンケート」SDQ を用いての評価表
- ④…5歳児健診（集団）の観察集計表
- ⑤…5歳児健診結果票（平成28年度～令和元年度）
- ⑥…5歳児健診（個別）診査票
- ⑦…5歳児健診後フォロー支援計画表

<周知・啓発に関すること>

- ⑧…5歳児健診（集団適応健診）のお知らせ
- ⑨…広報すずか「情報館①集団適応健診」
- ⑩…子どもへの対応についてのチラシ
「すこやかな成長を願って～成功体験を増やしましょう～」

<健診後のフォローに関すること>

- ⑪…5歳児・就学後フォローの保護者へのメッセージ
- ⑫…すずっこスクエア

5歳児健康診査票(小枝方式改訂版)

保育園		園児名 (生年月日 平成 年 月 日 (歳)		
項目番号	カテゴリ	方法	1	2	1と判定目安
1	会話	あなたのなまえは？			姓名をいう
2		〇〇ちゃんは何組ですか？			正確に答える
3		〇組の先生の名前は何か？			正確に答える
4	概念	右手をあげてください			右手をあげる
5		左手をあげてください			左手をあげる
6	協調運動	指のタッピング(右)			ミラーがでない
7		指のタッピング(左)			ミラーがでない
8		前腕の回内・回外(右)			回内・回外になっている
9		前腕の回内・回外(左)			回内・回外になっている
10	動作模倣	両前腕回外肘屈曲			正確に模倣する
11	協調運動	片足ケンケン(右)			5回以上連続して可能
12		片足ケンケン(左)			5回以上連続して可能
13	概念	帽子って何するものかな？			かぶるもの
14		靴って何するものかな？			はくもの
15		お箸って何するものかな？			ごはんを食べるもの
16		本って何するものかな？			読むもの
17		じゃんけんをする(3回)			3回とも正確に勝ち負けがわかる
18		しりとりをする(3往復)			3往復、しりとりが正確にできる
19	行動制御	「いいよ」って言うまで目をつむってください。			20秒以上持続可能
20		「いいよ」って言うまで目をつむってください。			自己刺激がない
21	会話	発音の明瞭さ			明瞭であり、聞き返しが不要である
＜園医の意見＞					

(「三重県医師会 5歳児健診マニュアル」から)

保育所(園) 幼稚園 名		保育所(園) 幼稚園		○	5歳児健診 問診票		保護者用	
クラス名		組(クラス)			番号	記入日	年	月
ふりがな				住所				
児童名				連絡先		自宅電話	-	-
性別	生年月日	平成 年 月 日 [歳 ヶ月]		携帯電話		-	-	-
男・女				(父・母)				
除家族 いた構 成居 (本 族 人 を)	続柄	名前	年齢	続柄	名前	年齢		

※以下の内容をお読みいただき、同意される場合は、「日付」「保護者署名」にご記入ください。

鈴鹿市長宛

5歳児健診(集団適応健診)にあたり、以下のこと、

- ・お子さんが通園している鈴鹿市内の幼稚園・保育所(園)、小学校等に、健診の実施主体(鈴鹿市)がお子さんの日ごろの様子をお聞きすること及び、健康づくり課が実施した乳幼児健康診断の記録を確認すること
- ・5歳児健診の問診内容や結果について、健診の実施主体(鈴鹿市)とお子さんが通園している鈴鹿市内の幼稚園・保育所(園)、通学予定の小学校等が情報共有を行うこと

について承諾したうえで、子どもに健診を受けさせることに同意します。

(日付) 年 月 日 (保護者署名)

●お子さんの生まれてからの様子・今の生活習慣等についてご記入、または該当する所にチェックしてください。

- 1 出生時 妊娠()週 体重()g 受けた処置等 ない ・ ある()
- 2 これまでの乳幼児健診時、発達面で何か指摘されたことがありますか。 ない ・ ある()
→「ある」の場合、現在、継続されている支援はありますか。()
- 3 現在、治療中あるいは経過をみられている病気はありますか。 ない ・ ある()
- 4 耳の聞こえが悪いという心配はありませんか。 ない ・ ある()
- 5 目が悪いという心配はありませんか。 ない ・ ある()
- 6 すずかっ子支援ファイルを持っていますか。 ない ・ ある
- 7 解答欄の当てはまる番号に○をつけてください。

質問内容	解答欄		
朝は何時頃起床しますか	1 午前7時以前	2 7時～8時	3 8時以降
朝食は毎日摂りますか	1 はい	2 時々摂らない	3 ほとんど摂らない
毎日外で遊びますか	1 はい	2 時々遊ぶ	3 ほとんど遊ばない
夕食は何時頃摂りますか	1 午後6時台かそれ以前	2 7時～8時	3 8時以降
※メディアとの接触は何時間と決めていますか	1 見せていない	2 2時間未満	3 2時間以上
夜9時以降に※メディアと接触させていますか	1 いいえ	2 時々	3 よくある
夜9時以降にお子さんを連れて外出することがありますか	1 いいえ	2 時々	3 よくある
夜は何時頃にふとんに入りますか	1 午後9時前	2 9時～10時	3 10時以降
同居家族の中に喫煙される方がいますか	1 いいえ	2 はい	

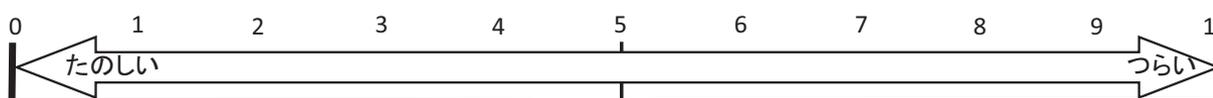
※ メディアとは、テレビ、ビデオ、DVD、テレビゲーム、携帯ゲーム等です。

【裏面に続く】

- 8 下記の質問項目について、「あてはまらない」、「少しあてはまる」、「あてはまる」の中から選んでください。
 答える時には、お子さんのここ半年くらいの行動について、解答欄に○を1つ付けてください。
 迷う場合、最も近いものを選んで答えてください。

質問内容	解答欄		
	あてはまらない	少しあてはまる	あてはまる
他人の気持ちをよく気づかう。			
落ち着きがなく、長い間じっとしてられない。			
頭がいたい、お腹がいたい、気持ちが悪いなどと、よくうたえる。			
他の子どもたちと、よく分け合う(おやつ・おもちゃ・鉛筆など)。			
カッとなったり、かんしゃくをおこしたりする事がよくある。			
一人でいるのが好きで、一人で遊ぶことが多い。			
素直で、大体は大人の言うことをよく聞く。			
心配ごとが多く、いつも不安なようだ。			
誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。			
いつもそわそわしていたり、もじもじしている。			
仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。			
よく他の子とけんかをしたり、もめたりする。			
おちこんでしずんでいたたり、涙ぐんでいたたりすることがよくある。			
他の子どもたちから、だいたい好かれているようだ。			
すぐに気が散りやすく、注意を集中できない。			
真新しい場面に直面すると不安ですがりついたり、すぐに自信をなくす。			
年下の子どもに対してやさしい。			
よく大人に対して口答えをする。			
他の子から、いじめの対象にされたり、からかわれたりする。			
自分からすすんでよく他人を手伝う(親・先生・子どもたちなど)。			
よく考えてから行動することができる。			
他の人にたいしていじわるをする。			
他の子どもより、大人という方がうまくいくようだ。			
こわがりで、すぐにおびえたりする。			
ものごとを最後までやりとげ、集中力もある。			

- 9 子育てについて、今の気持ちを数字であらわすとしたら、一番近い数字はどれですか。○を付けてください。



- 10 お子さんの発達等に関して心配なことはありますか。ある場合は、具体的にご記入ください。

・特にない

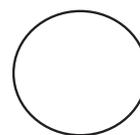
↓
 ・ある ()

子ども家庭支援課での面談を希望される場合は、下記へご連絡ください。

(子ども家庭支援課: TEL059-382-9030・FAX059-382-9142)

担任用問診票

番号



_____ 所(園) _____ 組

記入日: _____ 年 _____ 月 _____ 日

ふりがな		生年月日	平成 年 月 日
名前		性別	男 女

下記の質問項目について、「あてはまらない」、「少しあてはまる」、「あてはまる」の中から選んでください。答える時には、お子さんの、ここ半年くらいの行動について、解答欄に○を1つ付けてください。迷う場合、最も近いものを選んで答えてください。

質問内容	解答欄		
	あてはまらない	少しあてはまる	あてはまる
1 他人の気持ちをよく気づかう。			
2 落ち着きがなく、長い間じっとしてられない。			
3 頭がいたい、お腹がいたい、気持ちが悪いなどと、よくうたえる。			
4 他の子どもたちと、よく分け合う(おやつ・おもちゃ・鉛筆など)。			
5 カツとなったり、かんしゃくをおこしたりする事がよくある。			
6 一人であるのが好きで、一人で遊ぶことが多い。			
7 素直で、大体は大人の言うことをよく聞く。			
8 心配ごとが多く、いつも不安なようだ。			
9 誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。			
10 いつもそわそわしたり、もじもじしている。			
11 仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。			
12 よく他の子とけんかをしたり、もめたりする。			
13 おちこんでしずんでいたり、涙ぐんでいたりすることがよくある。			
14 他の子どもたちから、だいたい好かれているようだ。			
15 すぐに気が散りやすく、注意を集中できない。			
16 真新しい場面に直面すると不安ですがりついたり、すぐに自信をなくす。			
17 年下の子どもに対してやさしい。			
18 よく大人に対して口答えをする。			
19 他の子から、いじめの対象にされたり、からかわれたりする。			
20 自分からすすんでよく他人を手伝う(親・先生・子どもたちなど)。			
21 よく考えてから行動することができる。			
22 他の人にたいしていじわるをする。			
23 他の子どもより、大人という方がうまくいこうだ。			
24 こわがりやで、すぐにおびえたりする。			
25 ものごとを最後までやりとげ、集中力もある。			

御協力ありがとうございました。

《「子どもの強さと困難さアンケート」SDQを用いての評価表》

※東京都葛飾区のモデル「5歳児健診事業-東京方式-」を参考。

質問内容	解答欄		
	あてはまらない	少しあてはまる	あてはまる
1 他人の気持ちをよく気づかう。			
2 落ち着きがなく、長い間じっとしてられない。			
3 頭がいたい、お腹がいたい、気持ちが悪いなどと、よくうたえる。			
4 他の子どもたちと、よく分け合う(おやつ・おもちゃ・鉛筆など)。			
5 カットなったり、かんしゃくをおこしたりする事がよくある。			
6 一人でいるのが好きで、一人で遊ぶことが多い。			
7 素直で、大体は大人の言うことをよく聞く。			
8 心配ごとが多く、いつも不安なようだ。			
9 誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。			
10 いつもそわそわしたり、もじもじしている。			
11 仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。			
12 よく他の子とけんかをしたり、もめたりする。			
13 おちこんでずんできていたり、涙ぐんでいたりすることがよくある。			
14 他の子どもたちから、だいたい好かれているようだ。			
15 すぐに気が散りやすく、注意を集中できない。			
16 真新しい場面に直面すると不安ですがりついたり、すぐに自信をなくす。			
17 年下の子どもに対してやさしい。			
18 よく大人に対して口答えをする。			
19 他の子から、いじめの対象にされたり、からかわれたりする。			
20 自分からすすんでよく他人を手伝う(親・先生・子どもたちなど)。			
21 よく考えてから行動することができる。			
22 他の人にたいしていじわるをする。			
23 他の子どもより、大人という方がうまくいくようだ。			
24 こわがりで、すぐにおびえたりする。			
25 ものごとを最後までやりとげ、集中力もある。			

《「子どもの強さと困難さアンケート」SDQを用いての評価表》

※東京都葛飾区のモデル「5歳児健診事業-東京方式-」を参考。

支援の必要性 問診項目	Low Need ほとんどない	Some Need ややある	High Need おおいにある
	0-12	13-15	16-40
①行為面 5.7.12.18.22	0-3	4	5-10
②多動・不注意 2.10.15.21.25	0-5	6	7-10
③情緒面 3.8.13.16.24	0-3	4	5-10
④仲間関係 6.11.14.19.23	0-3	4	5-10
⑤向社会性 1.4.9.17.20	6-10	5	0-4
Total Difficulties Score (①~④の合計)	0-12	13-15	16-40

《一次スクリーニング》
ここに当てはまる児を要支援候補児とし、注意深く観察する。

《各問診項目の点数》

問診項目番号	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
⑤向社会性 1, 4, 9, 17, 20	カウントしない		
7, 11, 14, 21, 25	2	1	0
上記以外	0	1	2

※一部「5歳児健診事業-東京方式-」を参考

平成 28 年度
要支援と判定された場合の結果票

鈴子支 第 号
平成 年 月 日

〇〇幼稚園（保育所） 組
さん
保護者 様

鈴鹿市長 末松 則子

「集団適応健診（モデル事業）」の結果について

この度は、集団適応健診（モデル事業）へ、ご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

今回の健診から、集団への適応という視点で、お子様の今後の支援について相談させていただきたい事がございましたので、下記の日程で面談させていただきたいと思います。

なお、ご都合の悪い場合は、下記まで連絡いただきますようお願いいたします。

記

- 1 日時 平成 年 月 日（ ） 時 分～ 時 分
- 2 場所 〇〇幼稚園（保育所）

《お問い合わせ先》

鈴鹿市神戸一丁目18番18号
鈴鹿市子ども政策部子ども家庭支援課
電話：059-382-9030

集団適応健診結果票

名 前	様	生年月日	
在籍園名			

このたびは、集団適応健診（モデル事業）へ、ご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

- 今回の「集団適応健診」は、①大人からの働きかけを受け入れ、応じる力、
②人とかかわる力、
③ことばの発達、
④身体の発達、
⑤緊張や不安なく対応する力

上記のことをポイントに、集団での活動の場面と個別に対応する場面からみさせていただきました。

「健診結果」は、問診内容や日ごろの保育の様子・乳幼児健診の情報等に加え、医師の判断も含め、総合的に出されたものです。

ポイント（観察の視点）				
行 動 （働きかけや指示 に反応すること）	人との関わり	ことばの 発達	身体の発達 （身体の動き、 手先の器用さ）	緊張・ 不安

健診結果	少し手助けが必要と思われます
------	----------------

コメント	<p>今回の健診では、上記に○の付いた項目がやや苦手とされている様子が伺えました。</p> <p>そこで、健診結果についての、もう少し詳しい説明と、今後に向けての相談会を、下記のとおり予定させていただきます。なお、ご都合の悪い場合は、在籍園にお知らせください。</p> <p>《相談会》 日時：平成 年 月 日（ ）： ～ （約 1 時間程度） 場所： 保育所（園）・幼稚園</p>
------	---

集団適応健診結果票

名 前	様	生年月日	
在籍園名			

このたびは、集団適応健診（モデル事業）へ、ご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

今回の「集団適応健診」では、

- ①大人からの働きかけを受け入れ、応じる力
- ②人とかかわる力
- ③ことばの発達
- ④身体の発達
- ⑤緊張や不安なく対応する力

の5点をポイントに、お子さんの集団活動の場面や個別対応の場面を見させてもらいました。

「健診結果」は、問診内容や日ごろの保育の様子・乳幼児健診の情報等に加え、医師の監修を受け、総合的に出されたものです。

健診結果

今回の健診では、様子が伺えました。

そこで、お子さんの日頃の様子も聞かせていただき、健診結果についてのもう少し詳しい説明と、今後に向けての相談会を下記のとおりさせていただきたいと思えます。

お忙しい中とは存じますが、是非、おこしくださいますようよろしくお願いいたします。なお、ご都合の悪い場合は、在籍園にお知らせください。

〈相談会〉

日時：平成 年 月 日（ ） : ~ （約 1 時間程度）

場所： 保育所（園）・幼稚園

※ 今回の健診結果について、ご質問などがございましたら、
鈴鹿市子ども政策部子ども家庭支援課（TEL：059-382-9030）までお問い合わせください。

【5歳児健診結果表】

〒 - 鈴鹿市〇〇町△△番地の△ 様 方 様		
	園(所)名	〇〇保育園・幼稚園
	生年月日	平成 年 月 日

5歳児健診（集団適応健診）結果票

今回の「5歳児健診（集団適応健診）」では、

- ①大人からの働きかけを受け入れ、応じる力 ②人とかかわる力
③ことばの発達 ④運動の発達 ⑤緊張や不安なく対応する力

の5点をポイントに、お子さんの集団活動の場面や個別対応の場面を見させてい
ただきました。

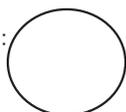
「健診結果」は、問診内容や日ごろの保育の様子・乳幼児健診の情報等を加え、
医師の監修を受け、総合的に出されたものです。

健診結果
<p>今回の健診では、 （※良い面と苦手な面の両方を記載し、苦手な面については対応方法も記載す る。） お子さんの良いところも含め、保護者の方や園の先生とともに共有し、今後の手立 てを一緒に考えることができればと思います。 そこで、健診での様子をお伝えする機会を下記のとおり計画しましたので、お忙し い中とは存じますが、是非、おこしくudasimasuようよろしくお願いいたします。 なお、ご都合の悪い場合は、在籍園にお知らせください。</p> <p>日時：令和 年 月 日（ ） : ~ （約30分程度） 場所： 保育所（園）・幼稚園</p>

※ 今回の健診結果についてのご質問は

鈴鹿市子ども政策部子ども家庭支援課（TEL：059-382-9030）へお問い合
わせください。

番号:



5歳児健診(個別)診査票

健診日 令和元年 月 日

ふりがな		生年月日		平成 年 月 日 [歳 ヶ月]					
氏名		性別		男・女		保育所(園) 幼稚園			
年 齢		4歳～		4歳6ヶ月～		5歳以上			
項目番号	カテゴリ	方法	1	2	1	2	1	2	1と判定する目安
1	会話	あなたのなまえは？							姓名をいう
2		〇〇さんは何組ですか？							正確に答える
3		〇組の先生の名前は？							正確に答える
4	概念	右手をあげてください							右手をあげる
5		左手をあげてください							左手をあげる
6	協調運動	指のタッピング(右)							ミラーが出ない
7		指のタッピング(左)							ミラーが出ない
8		前腕の回内・回外(右)							回内・回外になっている
9		前腕の回内・回外(左)							回内・回外になっている
10	動作模倣	両前腕回外肘屈曲							正確に模倣する
11	協調運動	片足ケンケン(右)							5回以上連続
12		片足ケンケン(左)							5回以上連続
13	概念	帽子って何するものかな？							かぶるもの
14		靴って何するものかな？							はくもの
15		お箸って何するものかな？							ごはんを食べるもの
16		本って何するものかな？							読むもの
17		じゃんけんをする(3回)							3回とも正確に勝ち負けがわかる
18		しりとりをする(3往復)							3往復, しりとりが正確にできる
19	行動制御	「いいよ」って言うまで 目をつむってください							20秒間, 閉眼可能
20		「いいよ」って言うまで 目をつむってください							自己刺激がない
21	会話	発音の明瞭さ							明瞭であり, 聞き返しが不要である
実施者名:		記録者名:							
<特記事項>									

【5歳児健診後フォロー支援計画表】

要支援児

在籍園名				健診実施日	令和元年 月 日
名 前				クラス名	組
5歳児健診の結果	問診票(SDQ点数)	保護者 (点)	担 任 (点)		
	行 動 (多動・不注意)				
	コミュニケーション(他児とのやりとり)				
	理 解 (概念理解・ルール理解)				
	運 動 (不器用・左右差等)				
	緊 張 (緊張・不安)				
観察時に気になった様子					

<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援のアドバイス (年 月 日) ・記入者 () 	
<ul style="list-style-type: none"> ・実施後の評価 (年 月 日) ・記入者 () 	

子ども家庭支援課に、提出予定日： 年 月 日

【鈴鹿市子ども政策部子ども家庭支援課】

5歳児健診(集団適応健診)のお知らせ

★ねらい★

集団生活へのなじみにくさや苦手さに早く気づき、子どもにかかわる大人が子どもの姿を深く理解し、早期から、子どもの長所や得意なことに着目して対応することで、園生活を通して子どもが自信を深め、スムーズな就学につながることをめざします。

実施年度に満5歳
(4歳児クラス)
になるお子さんです。

在籍される
幼稚園・保育所(園)
などで実施します。

だれが対象？

どこですの？

何をするの？

その後は？

問診票と園での様子
の観察等をもとに、
医師の監修を受け、
結果をお伝えします。

お子さんが自分の
もちあじを生かして
力を発揮できる
サポートを行います。

※市内公私立幼稚園・保育所(園)・認定こども園に在籍されていない方については、市内公共機関で実施する予定です。

この事業を通して、鈴鹿市医師会と鈴鹿市が連携し、保護者が安心して子育てができるよう実施しています。

<問い合わせ先：鈴鹿市子ども家庭支援課 059-382-9030>

5歳児健診(集団適応健診)についてのQ&A

Q：「集団適応健診」って、何ですか？乳幼児健診（1歳6か月児健診や3歳児健診等）と同じようなものですか？

A：お子さんの、集団へのなじみにくさや苦手さに早く気づき、適切な手立てを行えるようにすることを目的とする健診です。

問診票や健診当日の観察等を通して、集団生活でのお子さんの様子を見させていただきます。個々のお子さんの健康状態等を見る乳幼児健診とは、ねらいや内容がちがいます。

Q：「集団適応健診」を受けた後、結果は教えてもらえるのですか？

A：問診票の内容や健診当日の観察等をもとに、医師（園医等）の監修を受け、後日判定結果を保護者の方へお伝えします。

Q：5歳児健診(集団適応健診)は、どうして5歳児クラスではなく、4歳児クラスの子どもが対象なのですか？

A：大きく2点あります。

【1】園生活を通して子どもの自信を深める手立てを行うため（健診フォロー）

就学まで1年以上余裕のある4歳児クラスを対象にすることで、子どもの育ちにかかわる人たちが、その子の姿を深く理解し適切な手立てを行い、その子が集団内で成功体験を積み重ねることで成果をあげることを目指します。

【2】子どもの発達段階に応じて

4歳児クラス（満5歳時）の子どもたちは、徐々にお友だちとのかかわりを求める時期でもあり、集団へのなじみにくさや苦手さに早く気づくという意味では、最も適切なタイミングになります。同様の考えから、集団適応健診（5歳児健診）を実施する他の自治体も、年度内に満5歳を迎える子どもを対象にしています。

Q：この健診を受けることで、発達が遅れていると言われるのではないかと心配です。健診後は、どうなるのですか？

A：この健診は、病気の診断や障がいの特定をするものではありません。この健診をきっかけにお子さんへの理解を深め、日常の園生活等に生かすものです。ご希望により、小学校入学の際に引き継ぎ会を実施し、支援を引き継ぐことも出来ます。

子ども家庭支援課では、就学前の関係機関等と連携し保護者の方の相談やお子さんへの支援を一緒に考えていきます。集団適応健診の結果に関わらずお気軽に御相談ください。



情報館① 集団適応健診

子ども家庭支援課 ☎382-9030 ☎382-9142
 kodomokateishien@city.suzuka.lg.jp



満5歳児の集団適応健診を行います

鈴鹿市では、平成28年度より「集団適応健診」のモデル事業に取り組んでいます。平成30年度から満5歳になる全ての子どもを対象に健診を行いますので、その目的や内容などについてお知らせします。

集団適応健診って何？

子どもの集団生活への適応状況をみて、適切な手立てを行うためのものです。

関わる大人が早期に子どもの長所や得意なことに着目した対応をすることで、生活を通して子どもが自信を深め、スムーズな就学につなげます。

対象

今年度に満5歳(4歳児クラス)になるお子さん
 (平成25年4月2日生まれ～平成26年4月1日生まれ)

実施期間

5月中旬～12月下旬まで
 ※実施日は、概ね1カ月前にお知らせします。

実施場所

お子さんが在籍する保育所(園)・幼稚園・認定こども園
 ※市外の保育所(園)・幼稚園・認定こども園のお子さんや未就園のお子さんについては、1月以降に市内の公共施設で行う予定です。詳しくは個別にお知らせします。

Q 集団適応健診(5歳児健診)は、どうして4歳児クラスの子どもが対象なのですか？

A その子に応じた手立てを行う上で就学まで1年以上の期間があるからです。
 また、4歳児クラスの子どもたちは、徐々に友達と関わりを求める時期となりますので、早く気付くという意味で、最も適切なタイミングになります。

Q この健診を受けることで、発達が遅れていると言われるのではないかと心配です。健診後は、どうなるのですか？

A この健診は病気の診断や障がいの特定をするものではありません。結果をもとに、関わる大人がお子さんへの理解を深め、生活に生かしていただきます。

健診の流れ(在籍園で受診される場合)

在籍園を通じて配布される「問診票」へ記入

集団での様子や個別のコミュニケーションなどを在籍園で観察

観察時の様子をまとめた後、
 医師による結果の監修

書面(必要に応じて面談)で結果のお知らせ

お子さんに応じた対応
 自信を深め、スムーズな就学へ



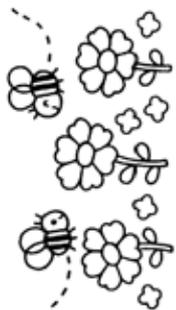
地域ぐるみの子育て応援団

子ども家庭支援課では、関係機関と連携して、保護者からの相談やお子さんへの支援方法を一緒に考えていきます。

集団適応健診の結果に関わらず、お気軽にご相談ください。

すこやかな成長を願って・・・

～成功体験を増やしましょう～



お子さんにはそれぞれの個性があり、得意・不得意の部分があるものです。

得意な部分を伸ばし、苦手な部分はサポートすることで、自信をつけていくことができます。

「頑張っているけど、うまくいかないこともあるよね」
 「困っているところはどこかな？」
 「なぜそうなってしまったのかな？」

困っている部分を
理解しましょう

「過ごしやすい環境や関わりを考えよう」
 「できた！たのしい！と思える経験を増やしましょう」
 「得意なところを伸ばしましょう」

お子さんにあった
関わりを考えましょう

いっぱい認めて、ほめましょう！

- ・「よく頑張ったね」・・・結果より経過を認めましょう。
- ・「ありがとう」・・・お手伝いを頼んでみてもいいですね。

ほめるのがちょっと難しいときは・・・

- ・「〇〇したね」・・・当たり前前にしていることでも、した行動をそのまま伝えるのもOKです。
- ・言葉がなくても1回の「ハグ」が、安心感につながります。

- ・自信を持ち、次へのやる気につながります。
- ・安心感、安定感の中で力を発揮していくことができます。



「できた！」
 「楽しい！」
 「うれしい！」

うまくいく体験
たくさん認められる体験

もっとやって
みたい！！



- ・達成感が持てる。
- ・自己肯定感が高まる。

子育て等お困りのときは、お気軽に
ご相談ください。

「 鈴鹿市役所 西館1F
 子ども家庭支援課 発達支援G
 TEL 059-382-9030
 FAX 059-382-9142 」

お子さんにあった関わり方ってどんなこと？

※お子さんが楽しめることが一番大切です。

① 大人からの働きかけを受け入れ応じる力

たとえば・・・

- 他のものが気になり、話を集中して聞くことが苦手である。
- 長い時間、じっと座っていることが苦手で、途中で立ち歩いてしまう。
- 先生の指示を聞き逃してしまい、行動に移せない。

こんな関わりはどうでしょう？

- 静かな場所で話しかけましょう。
- 短い文章で伝えたり、繰り返し伝えたりしましょう。
- 短い時間で活動を切り替えてみましょう。



② 人とかかわる力

たとえば・・・

- 1人で遊ぶことが多い、お友だちと関わることが少ない。
- 自分の思いをうまく表現できず、つい手が先に出てしまう。

こんな関わりはどうでしょう？

- お子さんの気持ちや代弁して大人が伝えましょう。
- 一緒に遊びながらバリエーションを増やしましょう。



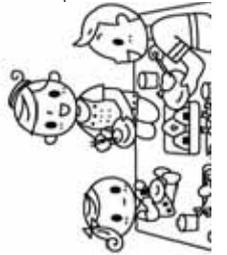
③ 言葉の発達

たとえば・・・

- 言葉がゆっくりに。言葉の数が少ない。
- 言葉を聞いて覚えること、理解すること、に時間がかかる。

こんな関わりはどうでしょう？

- 絵本の読み聞かせをしましょう。
- 子どもの行動に言葉を添えましょう。
- 絵や図やお手本などを示し、視覚的に伝えましょう。



④ 運動の発達

たとえば・・・

- 左右違う動きがスムーズにできない。
- 手先の作業がぎこちない。
- 姿勢がくずれやすい。

こんな関わりはどうでしょう？

- 遊具（アスレチック、ブランコ、ジャングルジムなど）で遊ぶ機会を増やしましょう。
- 手先を使う遊び（ぬり絵、パズル、粘土など）をしましょう。
- お手伝い（野菜ちぎりなど）を経験させましょう。



⑤ 緊張や不安なく対応する力

たとえば・・・

- 初めての物事、場所や人へのとまどいが大きく、うまく入れない。
- 自分の思いを表現できず、固まってしまう。

こんな関わりはどうでしょう？

- わかる範囲でイメージしやすいように、前もって伝えましょう。（写真等を見せるのもわかりやすい）
- 安心できるまで、信頼できる大人が側にいましょう。



年長児の保護者 様

このたびは、お子さんの入園、進級おめでとうございます。

鈴鹿市では、5歳児健診（集団適応健診）とその後のフォロー観察を通して、お子さん一人ひとりが、スムーズな園生活やその後の充実した学校生活へとつながるよう、取組を進めております。

その取組の一環として、本日子ども家庭支援課職員が園を訪問させていただきました。

入園、進級後のお子さんの様子で、もし気がかりなことや心配なことがありましたら、在籍されている園へご相談いただくとともに、子ども家庭支援課でも相談を受けておりますので、いつでもご利用ください。

【お問い合わせ・ご相談はこちらまで】
鈴鹿市子ども政策部子ども家庭支援課 TEL：382-9030

就学児童（小学校1年生）の保護者 様

このたびは、お子さんの小学校へのご入学おめでとうございます。

鈴鹿市では、5歳児健診（集団適応健診）とその後のフォロー観察を通して、お子さん一人ひとりが、スムーズな就学やその後の充実した学校生活へとつながるよう、取組を進めております。

その取組の一環として、本日子ども家庭支援課職員が学校を訪問させていただきました。

入学後のお子さんの様子で、もし気がかりなことや心配なことがありましたら、在籍されている学校へご相談いただくとともに、子ども家庭支援課でも相談を受けておりますので、いつでもご利用ください。

末筆になりましたが、お子さんの入学先でのご活躍を祈念しております。

【お問い合わせ・ご相談はこちらまで】
鈴鹿市子ども政策部子ども家庭支援課 TEL：382-9140



すずっこスクエア



令和元年7月19日(金)開始

お子さんの日常生活について気になることはありませんか？

集団への馴染みにくさや苦手さなど、何らかの課題や心配をもつお子さんと
 そのご家族の相談や、子どもの特性に応じたサポートを一緒に考えます。

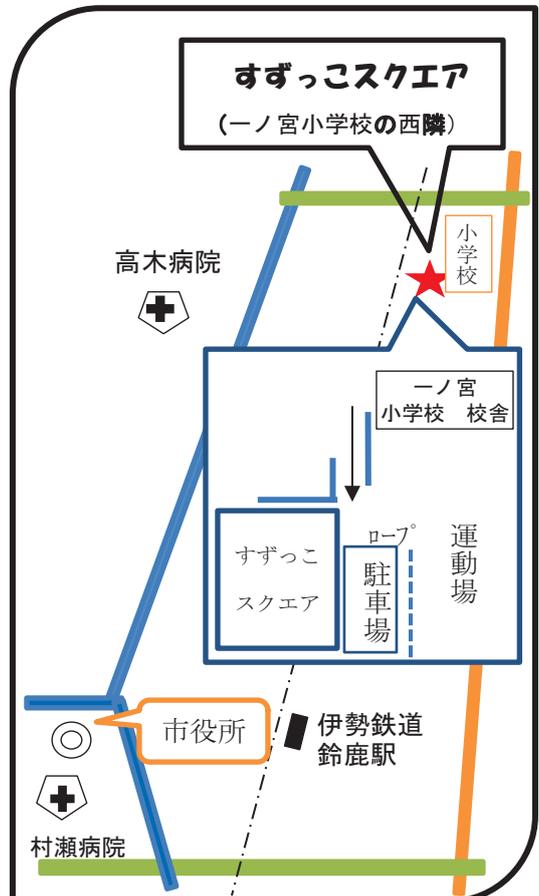
こんなことで悩んでいませんか？

- コミュニケーションがとりにくい
 - 集団行動が苦手
 - 落ち着きがない
 - こだわりがある
 - かんしゃくをおこしやすい
 - 視線が合いにくい
 - ◆ 子どもとの関わり方に自信がない
 - ◆ 相談できるところがわからない
- など



- 集団活動を通して、SST（ソーシャルスキルトレーニング）等を行います。
- 福祉制度の利用方法や、関係施設や関係機関の紹介等の情報提供を行います。
- ※ 臨床心理士・保健師・教員・保育士等が対応します。
- ※ SST（ソーシャルスキルトレーニング）は、社会生活技能訓練であり、上手に、人とやりとりをする技術の練習をして、社会性を身につけていくものです。

場 所：すずっこスクエア（旧一ノ宮幼稚園）
 住 所：〒513-0031 鈴鹿市一ノ宮町557番地
 ※駐車場あります。
 ※一ノ宮小学校の駐車場は駐車禁止です。
 曜 日：毎週月・金曜日 *裏面カレンダーを参照
 （祝祭日・年末年始等を除く）
 時 間：① 13:30～14:30
 ② 15:30～16:30
 利用対象：・5歳児健診(集団適応健診)対象児
 ・来年度就学する児(年長児)
 ・小学1年生
 ・日常生活で気になることがあるお子さんと
 そのご家族
 申し込み：実施日の3日前までに、下記連絡先に電話
 またはFAXにて予約してください。
 連絡先：鈴鹿市子ども政策部子ども家庭支援課
 電話 059-382-9030
 FAX 059-382-9142
 持ち物：上靴・水筒・ハンカチ・ティッシュ
 ※動きやすい服装でお越しください。



すずっこスクエア 実施予定日



実施日

7 July 2019

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

8 August 2019

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9 September 2019

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

10 October 2019

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

11 November 2019

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
27	28	29	30	31	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 December 2019

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

1 January 2020

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

2 February 2020

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

3 March 2020

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

● 印の日は実施予定日です。 毎週 月・金曜日（祝祭日・年末年始等を除く）

- ① 13:30～14:30 ② 15:30～16:30



【鈴鹿市子ども政策部・鈴鹿市教育委員会】



5歳児健診モデル事業 3年間のまとめ

発行日 令和2年3月

発行元 鈴鹿市 子ども政策部 子ども家庭支援課

〒513-8701

三重県鈴鹿市神戸一丁目18番18号

TEL 059-382-9030 FAX 059-382-9142

メール kodomokateishien@city.suzuka.lg.jp